

愛知県美術館年報

目次

展示・展覧会	5
2000年度観覧者数一覧	5
所蔵作品展	6
所蔵作品展展示作品リスト	7
小企画展（テーマ展示）	17
企画展	19
移動美術館	33
作品の収集と保存管理	35
作品の収集	35
収集方針・収集の状況など	35
新収蔵作品	36
保存・修復	38
所蔵作品の貸出	39
教育普及	45
出版・発行	45
講演会・講座等	45
ギャラリートーク	46
各種鑑賞プログラム	46
ビデオティーク	47
博物館実習	48
友の会	49
調査研究	50
ギャラリー（貸館）	51
利用状況	51
利用団体一覧	52
組織および職員構成図	54
関係役員会員名簿	55

展示・展覧会

2000年度観覧者数一覧

所蔵作品展

※()は年度内(2000年4月1日-2001年3月31日)の数字

展示期	会期	日数	入場者数	一日平均
2000年度第Ⅰ期	2000年4月7日-8月27日	(115)	91,861 (91,947)	800
	企画展共通入場者数 所蔵作品展のみの入場者		(89,241) (2,706)	(776) (24)
2000年度第Ⅱ期	9月15日-2001年1月21日	(103)	23,122	224
	企画展共通入場者数 所蔵作品展のみの入場者数		21,533 1,589	209 15
2000年度第Ⅲ期	2001年2月9日-4月1日	(44)	22,694 (21,722)	(494)
	企画展共通入場者数 所蔵作品展のみの入場者数		(21,311) (411)	(484) (10)
	合計	(262)	(136,791)	(522)
	企画展共通入場者数 所蔵作品展のみの入場者数		(132,085) (4,706)	(504) (18)

企画展

展覧会名	会期・日数	入場者数	一日平均
レンブラント、フェルメールと その時代 アムステルダム国立美術館所蔵 17世紀オランダ美術展	2000年4月7日-6月18日 (63日間)	104,226	1,654
田中恭吉展	7月15日-8月27日 (38日間)	22,788	599
加納光於展	9月15日-11月5日 (45日間)	11,606	257
アメリカン・ドリームの世紀	2000年11月23日-2001年1月28日 (52日間)	25,390	488
岸田劉生展	2001年2月9日-4月1日 45日間(44日間)	38,752 (37,087)	861
合計	(242日間)	201,097	831

所蔵作品展

所蔵作品展

所蔵作品によって20世紀の美術を系統的に展示することを基本として、3期の所蔵作品展を開催した。本年度からの新しい試みとして、所蔵作品展入口で「学芸員お薦めのこの1点」という展示を行なうとともに、展示室6を使用したテーマ展示や各展示室で特集展示などを実施し、所蔵作品展にも企画性を盛り込むよう工夫した。

小企画展（テーマ展示）

所蔵作品展示エリアの一部を用いて、特定のテーマに基づく小企画展を開催している。これは必ずしも所蔵作品によらず、20世紀美術史上重要な作家や運動、現代美術の新しい動向などを簡潔に紹介したり、学芸員の調査研究活動を展示によって発表する場として企図されている。1992年の開館以来年に2～4回ほど開催し、2000年度は下記展示を行なった。

・「ふじい忠一」

9月15日(金)～11月12日(日)

2000年度所蔵作品展開催状況

展示期	会期・日数	展示作品数
第Ⅰ期前期	2000年4月7日～7月2日(75日間) (113日間(年度内115日間、1999年度 第Ⅲ期2日間を含む。))	絵画68 立体28 版画24 水彩・素描30 計150
後期	7月15日～8月27日(38日間)	絵画57 立体20 版画0 水彩・素描32 計166
第Ⅱ期前期	9月15日～11月12日(51日間)	絵画54 立体18 版画17 水彩・素描1 計 90
後期	11月23日～2001年1月21日(46日間)	絵画64 立体12 版画27 水彩・素描12 計115
第Ⅲ期前期	2001年2月9日～3月4日(21日間)	絵画62 立体20 版画0 水彩・素描46 計128
後期	3月6日～4月1日(24日間)	絵画66 立体21 版画1 水彩・素描16 計104

展示室構成（○中の数字は展示室番号）

第Ⅰ期前期	④20世紀前半の西洋美術 ⑤20世紀の美術 ⑥河原温《浴室》シリーズ ⑦戦後の日本画 ⑧ゴーギャンと表現主義の版画
第Ⅰ期後期	④特集展示：東山魁夷展 東京国立近代美術館所蔵作品による ⑤20世紀の美術 ⑥マンズー ⑦夏休み特集：絵のなかの動物たち ⑧近代日本の水彩画
第Ⅱ期前期	④坂本繁二郎と日本洋画 ⑤20世紀の美術 ⑥テーマ展示：ふじい忠一 ⑦アルプ ⑧瑛九
第Ⅱ期後期	④近代の日本画 ⑤20世紀の美術 ⑥アメリカに学んだ日本人画家たち ⑦海老原喜之助 ⑧クブカ
第Ⅲ期前期	④具象絵画の展開 ⑤20世紀の美術 ⑥河原温「物置小屋の中の出来事」 ⑦岸田劉生とその時代 ⑧柳原義達
第Ⅲ期後期	④具象絵画の展開 ⑤20世紀の美術 ⑥2000年度新収蔵作品展 ⑦岸田劉生とその時代 ⑧柳原義達

所蔵作品展 展示作品リスト

■2000年度 第I期 前期(4月23日-6月27日)

展示室4 20世紀前半の西洋美術

〈絵画〉

パブロ・ピカソ	青い肩かけの女	1902
エドワール・ヴュイヤール	窓辺の女	1898
アルベール・マルケ	ノートルダムの後陣	1902
ラウル・デュフィ	サンタドレスの浜辺	1906
ピエール・ボナール	子供と猫	1906頃
ピエール・ボナール	にぎやかな風景	1913頃
アンリ・マティス	待つ	1921-22
藤田 嗣治	青衣の女	1925
藤田 嗣治	猫	1940・東京国立近代美術館蔵
エミール・ノルデ	静物L(アマゾーン、能面等)	1915
グスタフ・クリムト	人生は戦いなし(黄金の騎士)	1903
エルンスト・ルートヴィヒ・キルヒナー	日の当たる庭	1935
ジャック・ヴィヨン	存在	1920
フランティシェク・クブカ	灰色と金色の展開	1919
ライオネル・ファインガー	夕暮れの海I	1927
ナタリア・ゴンチャロヴァ	スペイン女	1916/20・東京国立近代美術館蔵
アメデオ・モディリアーニ	カリアティード	1911-13
ベン・ニコルソン	1933(スペインの絵葉書のあるコラージュ)	1933
ハンス・リヒター	色のオーケストレーション	1923・東京国立近代美術館蔵
ジョージア・オキーフ	抽象 第6番	1928
ジョアン・ミロ	絵画	1925

ポール・デルヴォー こだま 1943

マックス・エルンスト ポーランドの騎士 1954

〈水彩・素描〉

ジャコモ・バッラ 太陽の前を通過する木星(習作) 1914

〈彫刻・立体〉

オーギュスト・ロダン 歩く人 1900

ハンス・アルブ 森 1917頃

アレクサンダー・アーチベンコ 歩く女 1912

展示室5 20世紀の美術

〈絵画〉

高橋 由一 不忍池 1880頃

浅井 忠 八王子付近の街 1887

久米 桂一郎 秋景 1892

黒田 清輝 暖き日 1897

坂本 繁二郎 海岸の家 1915

梅原 龍三郎 若き羅馬人 1909

梅原 龍三郎 横臥裸婦 1908頃

中村 舜 少女裸像 1914

山下 新太郎 白耳義の少女 1909

安井 曾太郎 婦人像 1912頃

中村 舜 静物 1915頃

河野 通勢 白画像 1917

岸田 劉生 高須光治君之肖像 1915

小出 楢重 N婦人像

1918

小出 楢重 蔬菜静物

1925

国吉 康雄 帽子の女

1920頃

清水 登之 建築現場(ワーゲーデン) 1923

メキシコ三童女

1937

野田 英夫 サーカス

1937・東京国立近代美術館蔵

熊谷 守一 烏

1938

海老原 喜之助 雪山と樵

1930

里見 勝蔵 裸婦

1930

須田 国太郎 樹下

1957

森 芳雄 女たち

1954

山口 薫 ボタン雪と騎手

1953

麻生 三郎 胴体と頭と電球

1964

田淵 安一 有機的表象

1955

瑛九 黄色い花

1957-58

山口 長男 屏形

1963

斎藤 義重 作品

1962

ジャン・デュビュッフェ 二人の脱走兵

1953

アンディ・ウォーホル レディース・アンド・ジェントルメン

1975

ニコラ・ド・スター コンポジション

1948

アントニ・タピエス コンポジション

1977

サム・フランシス 消失に向かう地点の青

1958

ルーチョ・ファンターナ 空間概念

1960

アド・ラインハート	No. 114	
		1950
桑山 忠明	茶白青	
		1968
荒川 修作	Blank Stations	1981-82
中西 夏之	M字型一Ⅱ	1981
辰野 登恵子	Untitled 95-1	1995
加納 光於	繁み・運動・エレメントB	1988
フランク・ステラ	River of Ponds IV	1969
〈水彩・素描〉		
ロバート・ラウシェンバーグ	コース	1958
〈彫刻・立体〉		
イヴ・クライン	肖像レリーフ アルマン	1962
ジム・ダイൻ	芝刈機	1962
ルイス・ニーヴェルソン	漂う天界	1959-66
ジョージ・シーガル	ロバー&エセル・スカルの肖像	1965
舟越 桂	肩で眠る月	1996
展示室6 河原温《浴室》シリーズ		
〈水彩・素描〉		
河原 温	浴室1~28 [全28点]	1953・東京国立近代美術館蔵
展示室7 戦後の日本画		
〈日本画〉		
平川 敏夫	萌林	1960
竹内 浩一	雨まじか	1983
田渕 俊夫	青木ヶ原	1969
近藤 弘明	桜光冥夜	1981

吉岡 堅二	湿原	カール・シュミット=ロットルフ 草刈る人
後藤 純男	春映法隆寺	エルンスト・ルートヴィヒ・キルヒナー テヴェレ川の砂掘り
北沢 映月	花と舞妓	マックス・ペヒュタイン 女曲芸師
小杉 放菴	花鳥屏風	マックス・ペヒュタイン 水遊び
今野 忠一	妙義	エルンスト・ルートヴィヒ・キルヒナー ダンス
展示室8 ゴーギャンと表現主義の版画		
ポール・ゴーギャン	ナヴァ・ナヴァ・フェヌア	エーリヒ・ヘッケル 惹情な女たち
ポール・ゴーギャン	ノア・ノア(かぐわしい)	エルンスト・ルートヴィヒ・キルヒナー 眠る男
ポール・ゴーギャン	マルル(感謝)	ロビーなど
エミール・ノルデ	騎士	〈絵 画〉
エミール・ノルデ	自画像	エドワード・ジョン・ボインター 世界の若かりし頃
エミール・ノルデ	おしゃべり	モーリス・ルイス デルタ・ミュー
エーリヒ・ヘッケル	疲れ	1891
エーリヒ・ヘッケル	〈新時代のドイツ美術展〉のポスター	1960-61
エルンスト・ルートヴィヒ・キルヒナー	三本の道	〈彫刻・立体〉
エーリヒ・ヘッケル	タイトル木版画	ヴァルヘルム・レームブルック 立ち上がる青年
エルンスト・ルートヴィヒ・キルヒナー	舟を漕ぐサモアの女(扉)	ジョルジュ・ミンス 聖遺物箱を担ぐ少年
エルンスト・ルートヴィヒ・キルヒナー	男と女	メダルド・ロツ 病める子
エルンスト・ルートヴィヒ・キルヒナー	沐浴	荻原 守衛 女の胴
マックス・ペヒュタイン	座る男	中原 梓二郎 憇える女
エーリヒ・ヘッケル	マルツェラ	戸張 孤雁 おなご
エルンスト・ルートヴィヒ・キルヒナー	裸体坐像	戸張 孤雁 立てる女
カール・シュミット=ロットルフ	屋敷と庭園	戸張 孤雁 煌く嫉妬
		1924
		戸張 孤雁 烂く嫉妬
		1924
		戸張 孤雁 トルソ
		1922
		戸張 孤雁 トルソ
		1922
		柳原 義達 黒人の女
		1956

本郷 新	裸婦坐像	1975	屋外展示スペース		加藤 昭男	大地	1986
本郷 新	無事の民「油田地帯」	1970	〈彫刻・立体〉		小田 襄	円柱の構造	1988
加藤 昭男	ツタンカーメンのえんどう豆	1996	コルネリス・ジットマン カリブの女	1983	今井 琢郎	大地	1992
			アルナルド・ボモドーロ 飛躍の瞬間	1984			

■2000年度 第I期 後期(7月2日-8月22日)

前室	展示室5 20世紀の美術	ジョアン・ミロ 絵画
ルーチョ・フォンターナ 空間概念 1960	〈絵 画〉	ポール・デルヴォー こだま 1943
展示室4 東山魁夷展 —東京国立近代美術館所蔵作品による—	パブロ・ピカソ 青い肩かけの女 1902	〈彫刻・立体〉
〈絵 画〉	エドワード・ヴュイヤール 窓辺の女 1898	アレクサンダー・アーチベンコ 歩く女 1912
東山 魁夷 秋風行画巻 1952	アルベルト・マルケ ノートルダムの後陣 1902	ハンス・アルプ 森 1917頃
東山 魁夷 晚照 1954	ラウル・デュフィ サンタドレスの浜辺 1906	〈絵 画〉
東山 魁夷 青響 1960	ピエール・ボナール 子供と猫 1906頃	ジャン・デュビュッフェ 二人の脱走兵 1953
東山 魁夷 「日月四季図」小下絵 1960	ピエール・ボナール にぎやかな風景 1913頃	アンディ・ウォーホル レディーズ・アンド・ジェントルメン 1975
東山 魁夷 雪降る 1961	エミール・ノルデ 静物L(アマゾーン、能面等) 1915	ニコラ・ド・スター コンポジション 1948
東山 魁夷 黄耀 1961	グスタフ・クリムト 人生は戦いなり(黄金の騎士) 1903	アントニ・タビエス コンポジション 1977
東山 魁夷 映象 1962	エルンスト・ルーヴィヒ・キルヒナー グラスのある静物 1912	サム・フランシス 消失に向かう地点の青 1958
東山 魁夷 冬華 1964	エルンスト・ルーヴィヒ・キルヒナー 日の当たる庭 1935	アド・ラインハート No. 114 1950
東山 魁夷 月暉 1967	ジャック・ヴィヨン 存在 1920	桑山 忠明 茶白青 1968
東山 魁夷 「朝明けの潮」中下絵 1968	フランティシェク・クプカ 灰色と金色の展開 1919	荒川 修作 Blank Stations 1981-82
東山 魁夷 白い朝 1980	ライオネル・ファインガー 夕暮れの海Ⅰ 1927	辰野 登恵子 Untitled 95-1 1995
東山 魁夷 雪の山郷 1919・愛知県美術館蔵	ハンス・リヒター 色のオーケストレーション 1923・東京国立近代美術館蔵	加納 光於 繁み・運動・エレメントB 1988
	アメデオ・モディリアーニ カリアティード 1911-13	フランク・ステラ River of Ponds IV 1969
	ジョージア・オキーフ 抽象 第6番 1928	

〈彫刻・立体〉

イヴ・クライン	肖像レリーフ アルマン	1962
ジム・ダイン	芝刈機	1962
ルイス・ニーウェルソン	漂う天界	1959-66
ジョージ・シーガル	ロバート&エセル・スカルの肖像	1965
舟越 桂	肩で眠る月	1996
展示室6 夏休み特集 絵のなかの動物たち		
竹内 浩一	風	1981
山口 薫	ボタン雪と騎手	1953
マックス・エルンスト	ポーランドの騎士	1954
香月 泰男	散歩	1953
古賀 春江	夏山	1927
桂 ユキ子	ゴンベとカラス	1966・東京国立近代美術館蔵
池田 遙都	稲掛け	1981
吉岡 堅二	樂苑	1950・東京国立近代美術館蔵
長谷川 潔	小鳥と胡蝶	1961
駒井 哲郎	夜の魚	1951
北川 民次	牛	1937
谷中 安規	童庵夢がたり	1938
谷中 安規	蝶を吐く人	1933
谷中 安規	虎ねむる	1933
谷中 安規	童子騎象	1939
斎藤 清	競艶	1973
北川 民次	太ったバッタ	1971

戸張 孤雁	蛙	制作年不詳
-------	---	-------

展示室7 マンズー

〈彫 刻〉

ジャコモ・マンズー	ある主題によるヴァリエーション	1947-66
ジャコモ・マンズー	踊りのステップ	1953
ジャコモ・マンズー	素描14点	1967・東京国立近代美術館蔵
展示室8 近代日本の水彩画		
吉田 博	招魂社附近	1895・東京国立近代美術館蔵
吉田 博	養沢 西の橋	1896・東京国立近代美術館蔵
吉田 博	野中の老樹	1895頃・東京国立近代美術館蔵
吉田 ふじを	旗日の府中	1902-03・東京国立近代美術館蔵
吉田 ふじを	花咲く丘	1904・東京国立近代美術館蔵
吉田 ふじを	パークシャーヒルの5月	1905・東京国立近代美術館蔵
吉田 ふじを	アルハンブラ(獅子の庭)	1905・東京国立近代美術館蔵
吉田 ふじを	緑の庭	大正初年・東京国立近代美術館蔵
吉田 ふじを	温室風景	1932・東京国立近代美術館蔵
三宅 克己	風景	制作年不詳
森田 恒友	グラナダ風景	1915・東京国立近代美術館蔵
森田 恒友	ループル風景	1915・東京国立近代美術館蔵
戸張 孤雁	風景(山間の村)	制作年不詳
戸張 孤雁	風景(漁村)	制作年不詳
古賀 春江	川沿いの家	制作年不詳
伊藤 康	風景	1928頃
北川 民次	池袋風景	1937頃・寄託作品

北川 民次	瀬戸風景	1937・寄託作品
-------	------	-----------

前室2

〈絵 画〉

山口 長男	庭	1935
中村 義	静物	1915頃
熊谷 守一	鳥	1938
〈彫 刻・立体〉		
山口 勝弘	ヴィトリース	1955
北山 善夫	言葉が輝くとき	1987
加藤 昭男	ツタンカーメンのえんどう豆	1996
■ロビーなど		
モーリス・ルイス	デルタ・ミュー	1960-61
〈彫 刻・立体〉		
ヴィルヘルム・レームブルック	立ち上がる青年	1913
アレクサンダー・コールダー	片膝ついて	1944
アレクサンダー・コールダー	ゴースト	1976・寄託作品
屋外展示スペース		
〈彫 刻・立体〉		
コルネリス・ジットマン	カリブの女	1983
アルナルド・ボモドーロ	飛躍の瞬間	1984
加藤 昭男	大地	1986
小田 義	円柱の構造	1988
今井 瑞郎	大地	1992

■2000年度 第Ⅱ期 前期(9月3日-10月24日)

前室

北川 民次 タスコからの眺望 1933

展示室4 坂本繁二郎と日本洋画

〈絵 画〉

坂本 繁二郎 海岸の家 1915

坂本 繁二郎 豚 1915・東京国立近代美術館蔵

坂本 繁二郎 牧場 1915・寄託作品

坂本 繁二郎 鳶形山 1932・寄託作品

坂本 繁二郎 松間馬 1938・寄託作品

坂本 繁二郎 馬 1916-41・寄託作品

坂本 繁二郎 柿 1942・寄託作品

坂本 繁二郎 砥石 1943・寄託作品

坂本 繁二郎 壁画下図 1944・寄託作品

安井 曾太郎 京都郊外 1923・東京国立近代美術館蔵

安井 曾太郎 藤山氏像 1948・東京国立近代美術館蔵

安井 曾太郎 阿部能成像 1944・東京国立近代美術館蔵

安井 曾太郎 承徳喇嘛廟 1938

須田 国太郎 法觀寺塔婆 1932・東京国立近代美術館蔵

須田 国太郎 スペイン山間 1932・東京国立近代美術館蔵

須田 国太郎 夏の朝 1933・東京国立近代美術館蔵

須田 国太郎 断崖と漁夫達 1951・東京国立近代美術館蔵

藤島 武二 港の朝陽 1935・東京国立近代美術館蔵

展示室5 20世紀の美術

〈絵 画〉

エミール・ノルデ 静物L(アマゾーン、能面等) 1915

エルンスト・ルートヴィヒ・キルヒナー グラスのある静物 1912

エルンスト・ルートヴィヒ・キルヒナー 日の当たる庭 1935

ラウル・デュフィ サンタドレスの浜辺 1906

ピエール・ボナール にぎやかな風景 1913頃

グスタフ・クリムト 人生は戦いなり(黄金の騎士) 1903

マルク・シャガール コンサート 1974-75・東京国立近代美術館蔵

マルク・シャガール ふたり 1976-77・東京国立近代美術館蔵

ジヤック・ヴィヨン 存在 1920

フランティシェク・クプカ 灰色と金色の展開 1919

レイモン・デュシャン=ヴィヨン 恋人たち 1913

パウル・クレー 女の館 1921

アメデオ・モディリアーニ カリアティード 1911-13

ジョージア・オキーフ 抽象 第6番 1928

マックス・エルンスト ポーランドの騎士 1954

ジョアン・ミロ 絵画 1925

ポール・デルヴォー こだま 1943

〈彫刻・立体〉

アレクサンダー・アーチベンコ 歩く女 1912

高田 博厚 女のトルソ 1937

〈絵 画〉

ルーチョ・ファンターナ 空間概念 1960

ニコラ・ド・スター コンポジション 1948

アントニ・タビエス コンポジション 1977

サム・フランシス 消失に向かう地点の青 1958

ヤバチョフ・クリスト 旧ドバイ帝国国會議事堂の額包 1986

桑山 忠明 茶白青 1968

松本 陽子 光は荒野の中に拡散している 1993

久野 真 鉛による作品 No.2-62 1962

浅野 弥衛 作品 1979

辰野 登恵子 Untitled 95-1 1995

百瀬 寿 Square-NE XIV: Twelve Stripes E 1987

モーリス・ルイス デルタ・ミュー 1960-61

フランク・ステラ River of Ponds IV 1969

〈彫刻・立体〉

イヴ・クライン 肖像レリーフ アルマン 1962

ルイズ・ニーヴェルソン 漂う天界 1959-66

舟越 桂 肩で眠る月 1996

展示室6、ロビーなど テーマ展示 ふじい忠一

〈立 体〉

ふじい 忠一 Untitled 1991 1991

ふじい 忠一 Untitled 1997 1997

ふじい 忠一	Untitled	1999
ふじい 忠一	掌・足裏によるドローイング	

展示室7 アルプ

ハンス・アルプ	森	1917頃
ハンス・アルプ	星座	1932
ハンス・アルプ	夢ともぐろみ	1951-52

展示室8 瑛九展

〈絵 画〉		
瑛九	黄色い花	1957-58
瑛九	白い輪	1954
〈版画等〉		
瑛九	驚き	1951
瑛九	しゃがんで	1951

■2000年度 第Ⅱ期 後期(10月29日-12月23日)

前室		
ライオネル・ファインガー	夕暮れの海 I	1927
展示室4 近代の日本画		
〈絵 画〉		
橋本 雅邦	秋景山水図	1887頃
山元 春挙	溪村暮靄図	1900頃
横山 大観	飛泉	1900頃
菱田 春草	紅葉山水	1908
前田 青邨	江島詣	1917

瑛九	作品	制作年不詳
瑛九	航海	1956
瑛九	舞台のピエロ	1957
瑛九	輪	1957
瑛九	春のおとずれ	1957

前室2

〈絵 画〉		
山口 長男	庭	1935
熊谷 守一	鬼百合に揚羽蝶	1959
熊谷 守一	鳥	1938
〈彫刻・立体〉		
ジャコモ・マンズー	踊りのステップ	1953

ロビーなど

〈彫刻・立体〉

ヴィルヘルム・レームブルック	立ち上がる青年	1913
アレクサンダー・コールダー	片膝ついで	1944
アレクサンダー・コールダー	ゴースト	1976・寄託作品

屋外展示スペース

〈彫刻・立体〉

コルネリス・ジットマン	カリブの女	1983
アルナルド・ボモドーロ	飛躍の瞬間	1984
加藤 昭男	大地	1986
小田 裏	円柱の構造	1988
今井 増郎	大地	1992

前田 青邨	雨の蘇州	1919頃
川合 玉堂	湖畔晩帰	1928
小茂田 青樹	漁村早春	1921
小杉 放菴	花鳥屏風	1946-55頃
山本 丘人	幻雪	1978
岩橋 英遠	鶴	1960・東京国立近代美術館蔵
吉岡 堅二	鶴	1959
吉岡 堅二	湿原	1948・東京国立近代美術館蔵
上村 松策	朝	1953・東京国立近代美術館蔵

展示室5 20世紀の美術

〈絵 画〉

アンリ・マティス	待つ	1921-22
ラウル・デュフィ	サンタドレスの浜辺	1906
アルベール・マルケ	ノートルダムの後陣	1902
エドワード・ヴュイヤール	窓辺の女	1898
ピエール・ボナール	子供と猫	1906頃
ピエール・ボナール	にぎやかな風景	1913頃
エミール・ノルデ	静物L(アマゾン、能面等)	1915

エルンスト・ルートヴィヒ・キルヒナー グラスのある静物 1912	モーリス・ルイス デルタ・ミュー 1960-61	〈素描〉 海老原 喜之助 抽象的な裸像と顔など 1951
エルンスト・ルートヴィヒ・キルヒナー 日の当たる庭 1935	フランク・ステラ River of Ponds IV 1969	海老原 喜之助 母と子と顔かたちなど 1951
グスタフ・クリムト 人生は戦いなり(黄金の騎士) 1903	ジョージ・シーガル ロバート&エセル・スカルの肖像 1965	海老原 喜之助 抽象的な形と人 1953
ジャコモ・バッラ 太陽の前を通過する水星(習作) 1914	ルイス・ニーヴェルソン 漂う天界 1959-66	海老原 喜之助 悲しみ 1955
ジャック・ヴィヨン 存在 1920	舟越 桂 肩で眠る月 1996	海老原 喜之助 無題 制作年不詳・東京国立近代美術館蔵
レイモン・デュシャン=ヴィヨン 恋人たち 1913	展示室6 アメリカに学んだ日本人画家たち	海老原 喜之助 無題 制作年不詳・東京国立近代美術館蔵
パウル・クレー 女の館 1921	〈絵画〉	海老原 喜之助 本を焼く人の習作 1951・東京国立近代美術館蔵
アメデオ・モディリアーニ カリアティード 1911-13	国吉 康雄 荒天 1936	海老原 喜之助 無題 制作年不詳・東京国立近代美術館蔵
ジョージア・オキーフ 抽象 第6番 1928	国吉 康雄 帽子の女 1920	海老原 喜之助 四つの立像 1950・東京国立近代美術館蔵
マックス・エルンスト ポーランドの騎士 1954	清水 登之 建築現場(ワーゲン) 1923	海老原 喜之助 男の立像と顔など 1951・東京国立近代美術館蔵
ジョアン・ミロ 絵画 1925	清水 登之 森に憩う人 1929	海老原 喜之助 腕を組む裸婦など 1951・東京国立近代美術館蔵
ポール・デルヴォー こだま 1943	野田 英夫 サーカス 1937・東京国立近代美術館蔵	海老原 喜之助 魚を持つ男、形など 1953・東京国立近代美術館蔵
〈彫刻・立体〉	石垣 栄太郎 リンチ 1931・東京国立近代美術館蔵	展示室8 クプカ
アレクサンダー・アーチベンコ 歩く女 1912	杉本 ヘンリー 我々のバス 1943・東京国立近代美術館蔵	〈絵画〉
〈絵画〉	犬飼 恒平 自画像 1918・東京国立近代美術館蔵	フランティシェク・クプカ 灰色と金色の展開 1919
ルーチョ・ファンターナ 空間概念 1960	展示室7 海老原喜之助	〈版画〉
ニコラ・ド・スター リンゴ 1948	〈絵画〉	フランティシェク・クプカ 無題 1913
アントニ・タビエス コンポジション 1977	海老原 喜之助 二人の女 1927・東京国立近代美術館蔵	フランティシェク・クプカ 白と黒の四つの物語(26点) 1926
サム・フランシス 消失に向かう地点の青 1958	海老原 喜之助 ゲレンデ 1930・東京国立近代美術館蔵	前室2
桑山 忠明 茶白青 1968	海老原 喜之助 ゲレンデ 1930	〈絵画〉
久野 真 鉛による作品 No.2-62 1962	海老原 喜之助 雪山と樵 1930	山口 長男 庭 1935
浅野 弥衛 作品 1979	海老原 喜之助 雨の日 1963・東京国立近代美術館蔵	熊谷 守一 畏の裸婦 1964・東京国立近代美術館蔵
辰野 登恵子 Untitled 95-1 1995		中村 繁 静物 1915頃
百瀬 寿 Square-NE XIV: Twelve Stripes E 1987		

〈彫刻・立体〉

ジャコモ・マンズー 踊りのステップ
1953

ロビーなど

〈絵画〉

島田 章三 石庭女人図
1976

櫃田 伸也 通り過ぎた風景
1991

〈彫刻・立体〉

ヴィルヘルム・レームブルック 立ち上がる青年
1913

アレクサンダー・コールダー ゴースト
1976・寄託作品

屋外展示スペース

〈彫刻・立体〉

コレネリス・ジットマン カリブの女
1983

アルナルド・ボモドーロ 飛躍の瞬間

1984

加藤 昭男 大地

1986

小田 襄 円柱の構造

1988

今井 瑞郎 大地

1992

■2000年度 第Ⅲ期 前期: 2001年1月5日-2月20日 後期: 2月22日-4月2日

前室

梅原 龍三郎 横臥裸婦
1908

展示室4 具象絵画の展開(前期)

〈絵画〉

香月 泰男 釣り床
1941・東京国立近代美術館蔵

香月 泰男 散歩
1953

香月 泰男 久原山
1963・東京国立近代美術館蔵

香月 泰男 雪
1969・東京国立近代美術館蔵

脇田 和 貝殻と鳥
1954・東京国立近代美術館蔵

脇田 和 断層の人と鳥
1960

脇田 和 黄いろの鳥
1970

山口 薫 古羅馬の旅
1937・東京国立近代美術館蔵

山口 薫 ボタン雪と騎手
1953

山口 薫 田園詩
1956・東京国立近代美術館蔵

山口 薫 子供のための楽曲「田園」
1952・東京国立近代美術館蔵

森 芳雄 女たち
1954

森 芳雄 アクロポリス
1963

麻生 三郎 胴体と頭と電球
1964

糸園 和三郎 鳥の壁
1957・東京国立近代美術館蔵

糸園 和三郎 丘の或る日
1979・東京国立近代美術館蔵

展示室4 具象絵画の展開(後期)

〈絵画〉

香月 泰男 釣り床
1941・東京国立近代美術館蔵

香月 泰男 散歩
1953

香月 泰男 久原山
1963・東京国立近代美術館蔵

香月 泰男 雪
1969・東京国立近代美術館蔵

脇田 和 貝殻と鳥
1954・東京国立近代美術館蔵

脇田 和 断層の人と鳥
1960

脇田 和 黄いろの鳥
1970

山口 薫 古羅馬の旅
1937・東京国立近代美術館蔵

山口 薫 ボタン雪と騎手
1953

山口 薫 田園詩
1956・東京国立近代美術館蔵

山口 薫 子供のための楽曲「田園」
1952・東京国立近代美術館蔵

森 芳雄 女たち
1954

森 芳雄 アクロポリス
1963

麻生 三郎 胴体と頭と電球
1964

糸園 和三郎 鳥の壁
1957・東京国立近代美術館蔵

糸園 和三郎 丘の或る日
1979・東京国立近代美術館蔵

〈彫刻〉

本郷 新 無辜の民「仏生」
1970

展示室5 20世紀の美術(前期)

〈絵画〉

パブロ・ピカソ 青い肩かけの女
1902

ラウル・デュフィ サンタドレスの浜辺
1906

アルベルト・マルケ ノートルダムの後陣
1902

ピエール・ボナール 子供と猫
1906頃

ピエール・ボナール にぎやかな風景
1913頃

アンリ・マティス 待つ
1921-22

エミール・ノルデ	静物L(アマゾーン、能面等)	1915	原 裕治	アボクリファ NO.1	1994	サム・フランシス	春(版画)	1984-88
エルンスト・ルートヴィヒ・キルヒナー	グラスのある静物	1912	田窪 恭治	廃墟	1985	ロバート・ラウシェンバーグ	コース(素描)	1958
グスタフ・クリムト	人生は戦いなり(黄金の騎士)	1903	舟越 桂	肩で眠る月	1996	モーリス・ルイス	デルタ・ミュー	1960-61
ジャック・ヴィヨン	存在	1920						
フランティシェク・クブカ	灰色と金色の展開	1919						
ライオネル・ファインガー	夕暮れの海I	1927						
パウル・クレー	女の館	1921						
アメデオ・モディリアーニ	カリアティード	1911-13						
ジョージア・オキーフ	抽象 第6番	1928						
マックス・エルンスト	ポーランドの騎士	1954						
ジョアン・ミロ	絵画	1925						
ポール・デルヴォー	こだま	1943						
サム・フランシス	消失に向かう地点の青	1958						
サム・フランシス	春	1984-88						
ロバート・ラウシェンバーグ	コース	1958						
モーリス・ルイス	デルタ・ミュー	1960-61						
〈彫刻・立体〉								
オシップ・ザツキン	チエロのトルソ	1956-57						
ケーテ・コルヴィッツ	恋人たちII	1913頃						
ルイズ・ニーヴェルスン	漂う天界	1959-66						
ジョージ・シーガル	ロバート&エセル・スカルの肖像	1965						
北山 善夫	はなはだ大きいと言うべきである	1984						
戸谷 成雄	森	1992						
原 裕治	アボクリファ NO.1	1994						
田窪 恭治	廃墟	1985						
舟越 桂	肩で眠る月	1996						
展示室5 20世紀の美術(後期)								
〈絵 画〉								
パブロ・ピカソ	青い肩かけの女	1902						
ラウル・デュフィ	サンタドレスの浜辺	1906						
アルベルト・マルケ	ノートルダムの後陣	1902						
ピエール・ボナール	子供と猫	1906頃						
ピエール・ボナール	にぎやかな風景	1913頃						
アンリ・マティス	待つ	1921-22						
エミール・ノルデ	静物L(アマゾーン、能面等)	1915						
エルンスト・ルートヴィヒ・キルヒナー	グラスのある静物	1912						
グスタフ・クリムト	人生は戦いなり(黄金の騎士)	1903						
ジャック・ヴィヨン	存在	1920						
フランティシェク・クブカ	灰色と金色の展開	1919						
ライオネル・ファインガー	夕暮れの海I	1927						
パウル・クレー	女の館	1921						
アメデオ・モディリアーニ	カリアティード	1911-13						
ジョージア・オキーフ	抽象 第6番	1928						
マックス・エルンスト	ポーランドの騎士	1954						
ジョアン・ミロ	絵画	1925						
ポール・デルヴォー	こだま	1943						
サム・フランシス	消失に向かう地点の青	1958						
サム・フランシス	春	1984-88						
ロバート・ラウシェンバーグ	コース	1958						
モーリス・ルイス	デルタ・ミュー	1960-61						
〈彫刻・立体〉								
オシップ・ザツキン	チエロのトルソ	1956-57						
ケーテ・コルヴィッツ	恋人たちII	1913頃						
ルイズ・ニーヴェルスン	漂う天界	1959-66						
ジョージ・シーガル	ロバート&エセル・スカルの肖像	1965						
北山 善夫	はなはだ大きいと言うべきである	1984						
戸谷 成雄	森	1992						
展示室6 河原温「物置小屋の中の出来事」(前期)								
〈素 描〉								
河原 温	「物置小屋の中の出来事」31点 1954・東京国立近代美術館蔵							
展示室6 2000年度新収蔵作品展(後期)								
〈絵 画〉								
大澤 海藏	晩夏	1934						
大澤 海藏	編み物する女	1935頃						
島田 鮎子	白の想い	1997						
加納 光於	語りえぬものための変容	1978						
〈水彩・素描〉								
庄司 達	原形と写形 No.2	1978						

〈彫刻・立体〉

原 裕治 アポクリファ No.2
1994

〈版 画〉

ロバート・ラウシェンバーグ ブリューワー(白霜エディション)
1974

展示室7 岸田劉生とその時代

〈絵 画〉

木村 荘八 自画像
1913・東京国立近代美術館蔵

木村 荘八 壺を持つ女
1915

河野 通勢 好子像
1916・東京国立近代美術館蔵

河野 通勢 自画像
1917

萬 鉄五郎 湘南風景
1926・東京国立近代美術館蔵

萬 鉄五郎 紅葉風景
1926

大沢 錆一郎 母の像
1916・東京国立近代美術館蔵

大沢 錆一郎 大曾根風景
1919

大沢 錆一郎 ジンベを着た少女
1920

大沢 錆一郎 自画像
1919

宮脇 晴 母六十六歳の像
1924・東京国立近代美術館蔵

宮脇 晴 自画像
1920

〈日本画〉

岸田 劉生 寒山拾得
1928・東京国立近代美術館蔵

岸田 劉生 五福祥集
東京国立近代美術館蔵

萬 鉄五郎 砂丘風雨
1919-27

藤井 達吉 あざみ
1921

藤井 達吉 山芍薬
1921頃

展示室8 柳原義達

〈彫 刻〉

柳原 義達 黒人の女
1956

柳原 義達 風の中の鶴
1982

〈素 描〉

柳原 義達 裸婦・鶴・鳩の素描 15点
1991-93・東京国立近代美術館蔵

前室2

〈絵 画〉

鶴光 素描図巻(画卷)
1938・東京国立近代美術館蔵

鶴光 自顔像
1934

鶴光 編物をする女
1934

萬 鉄五郎 水郷風景
1926

杉本 健吉 正倉院
1976

〈彫刻・立体〉

ジャコモ・マンズー 踊りのステップ
1953

ロビーなど

〈絵 画〉

フランク・ステラ River of Ponds IV
1969

〈彫刻・立体〉

ヴィルヘルム・レームブルック 立ち上がる青年
1913

野水 信 コの記号 65-3
1965

屋外展示スペース

〈彫刻・立体〉

コルネリス・ジットマン カリブの女
1983

アルナルド・ボモドーロ 飛躍の瞬間

1984

加藤 昭男 大地

1986

小田 裕 小田の構造

1988

今井 瑞郎 大地

1992

小企画展(テーマ展示)

ふじい忠一

会期 2000年9月15日（金）～11月12日（日）

会場 展示室6、ロビー、愛知芸術文化センター2階フォーラム

担当 深山孝彰

主催 愛知県美術館／名古屋芸術大学

企画協力 GALLERY MOCA

助成 (財)朝日新聞文化財団

内容 10点（立体3点、ドローイング7点）

1941年奈良県に生まれ、現在三重県在住のふじい忠一は1970年代半ばから、檜や杉などの丸太を用いた作品を制作している。皮付きの巨木の幹がぐにゃりと曲げられたり、重量バランスによって組み合わされたりした作品は、トリッキーであるとともに極めてシンプルかつダイナミックである。1990年から翌年にかけて日本、アメリカ、カナダを巡回した「プライマル・スピリット—今日の造形精神」展など海外でも紹介され評価を受けているが、作品が巨大なこともあります、日本国内で複数の作が展観される機会は少なかった。本展はタイプの異なる3つの立体と、掌や足裏を用い墨やインクで描かれたドローイングをまとめて展示した。立体作品は杉を平仮名「つ」の字に曲げた形の1991年作と、長さ580cmの檜をシーソーのように丸太に乗せた1997年作、檜の幹の中央に楔を打ち込んで割り広げた1999年の新作で、1997年作は美術館の搬入エレベーターに入らないため、芸術文化センター2階フォーラムでの展示となった。

子供を含む多くの観覧者から注目を受け、寄せられた感想は、不思議な形への興味にとどまらず、巨木に現れた自然の偉大さや、それに対峙する人間の力といった深部に踏み込んだものが多くみられた。

なお、本展はふじいが非常勤講師を務める名古屋芸術大学との共催で開かれ、同大学の「芸術計画演習」（担当教員：大崎正裕・佐藤英治・高橋綾子）として、展覧会の広報・記録・想像上の企画立案などの作業が行われた。展覧会案内のDMは学生の制作である。また、(財)朝日新聞文化財団の助成によりカタログ冊子を制作することができた。

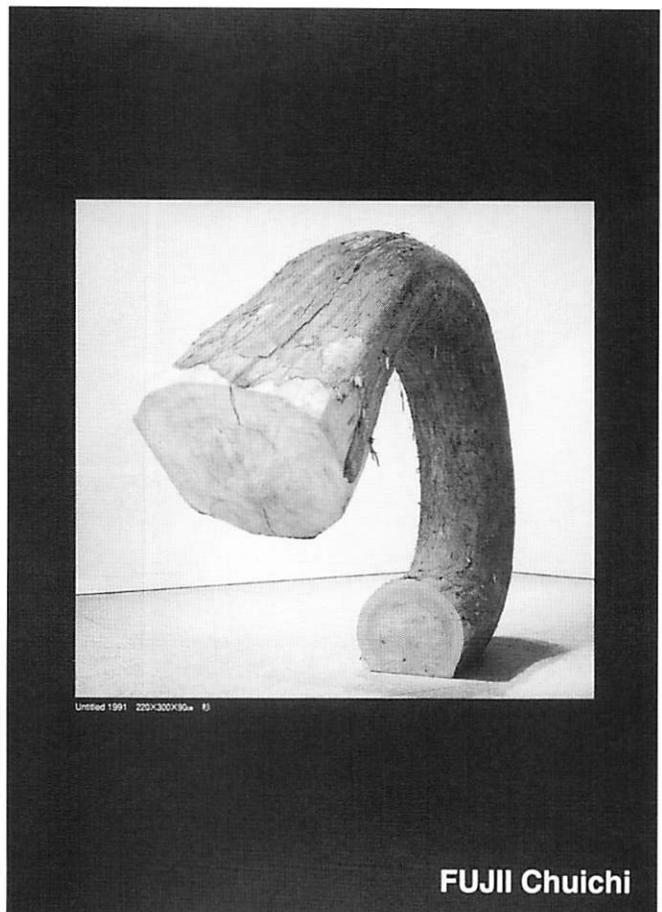
カタログ A4判8頁

テキスト 深山孝彰「ふじい忠一とその作品」

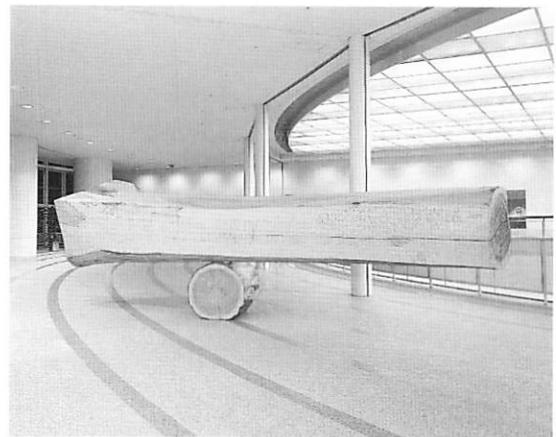
編集 深山孝彰

印刷 栄印刷株式会社

発行 愛知県美術館



FUJII Chuichi



【新聞、掲載記事等】

- 井上隆生 「近況・心境 愛知県美術館で個展を開催中の
彫刻家 ふじい忠一さん」
『朝日新聞 名古屋版』2000年9月21日夕刊
- 市川 真 「巨樹・巨木の魅力を探る 心いやす自然の
象徴」
『中日新聞』2000年11月9日朝刊
- 無署名 「Art news report 『愛知県美術館 テーマ展
ふじい忠一』」
『びあ中部版』No314、2000年10月30日号
- 深山孝彰 「現代作家紹介 巨木と斬り結ぶ ふじい忠一」
『美術フォーラム21』第3号、2000年11月
- NHK BS2 「新・真夜中の王国」
「エンターテインメントニュース A R T 『ふ
じい忠一展』」2000年11月8日放送

企画展

『アムステルダム国立美術館所蔵17世紀オランダ美術展 レンブラント、フェルメールとその時代』 Dutch art in the Age of Rembrandt and Vermeer

会期 2000年4月7日（金）～6月18日（日） 63日間

主催 愛知県美術館／中日新聞社

後援 愛知県・岐阜県・三重県・名古屋市各教育委員会

協力 日本航空

観覧料 一般1,200円、高校・大学生900円、小・中学生600円

（前売り・団体は200円引き）

担当 寺門臨太郎／藤島美菜

内容 出品点数：96点（油彩50、水彩・素描19、版画27）

日蘭修好400年を記念して、オランダの誇る世界有数の美術館であるアムステルダム国立美術館の所蔵品により、オランダ美術の黄金時代と呼ばれる17世紀の絵画芸術を紹介した。レンブラント《聖パウロに扮した自画像》、フェルメール《恋文》、ハルス《女の肖像》など油彩画50点、水彩素描・版画46点を展示。

展覧会カタログ A4判変形（31.7×24.5cm） 264ページ

編集 国立西洋美術館／愛知県美術館

発行 東京新聞

テキスト ウテル・クルーグ「17世紀オランダの絵画－才能ある専門家たちによる美術」

マリエット・ウェスター「郷土色－オランダ共和国における絵画と国民意識の原型」

ハイエン・レーフラング「「絵は詩のごとくにあらず」－17世紀オランダ美術における主題としての風景」

尾崎彰宏「アペレスに扮する自画像、あるいは絵画論の自己投影－レンブラント最晩年の自画像をめぐって」

幸福輝「恋のゆくえ－フェルメールの《恋文》とバテシバの手紙」

カタログ 章解説・作品解説

I.黄金時代の曙 寺門臨太郎

II.オランダの景観－風景描写と「オランダ」の成立 寺門臨太郎

III.壯麗あるいは虚栄－静物画の世界 尾崎彰宏

IV.自己の確立－レンブラントと肖像芸術 尾崎彰宏

V.日々の暮らし－フェルメールと風俗画 幸福輝



アムステルダム国立美術館所蔵 17世紀オランダ美術展

レンブラント、フェルメールとその時代

愛知県美術館 (受付) 2000年4月7日～6月18日回

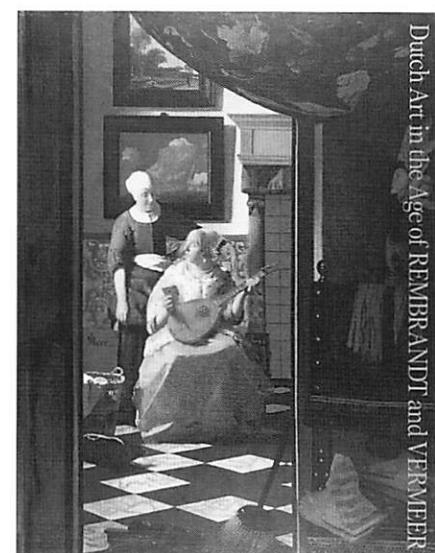
会場：愛知県美術館（名古屋市昭和区鶴舞町1番地）

料金：一般1,200円、高校・大学生900円、小・中学生600円

（前売り・団体は200円引き）

TEL：052-251-1001（受付） FAX：052-251-7000（受付） E-mail：info@art.pref.aichi.jp

TEL：052-251-1001（受付） FAX：052-251-7000（受付） E-mail：info@art.pref.aichi.jp



Dutch Art in the Age of REMBRANDT and VERMEER

VI.神、聖人、英雄—もうひとつのオランダ美術
幸福 輝
画家別索引

編集 幸福輝（国立西洋美術館）／寺門臨太郎（愛知県美術館）
制作 コギト
発行 愛知県美術館／東京新聞

関連事業

- 連続講演会「ヨーロッパ美術紀行—魅惑の17世紀」
13時30分から15時
4月15日（土）幸福輝（国立西洋美術館学芸課長）
「写実と日常の向こう側—もう一つのオランダ絵画」
4月22日（土）寺門臨太郎（当館学芸員）
「フランドル—偉大なる雅俗折衷の王国」
4月29日（土）押戸雅彦（当館学芸員）
「イタリア—軽くて薄い美術」
5月20日（土）栗田秀法（当館学芸員）
「明晰さの礼賛—フランス王立アカデミーの理想と現実」
5月21日（日）雪山行二（当館副館長）
「スペイン美術—聖と俗の架橋」

スライド・レクチャー

- 4月8日（土）10時30分から 寺門臨太郎
4月9日（日）10時30分から 藤島美菜
5月21日（日）10時30分から 寺門臨太郎
5月26日（金）18時から 藤島美菜
6月2日（金）18時から 藤島美菜

小・中・高校の先生方への展示説明会

- 4月15日（土）15時30分から16時 藤島美菜

友の会会員のための特別鑑賞会

- 4月27日（木）17時から 鑑賞会 寺門臨太郎
19時から コンサート
櫻井茂（ヴィオラ・ダ・ガンバ）
戸崎廣乃（チェンバロ）
5月25日（木）18時30分から コンサート
野々下由香里（ソプラノ）
永田平八（リュート）

総入場者数 104,226人（1日平均入場者数：1,654人）

展覧会巡回先	会期	総入場者数	1日平均
愛知県美術館	2000年4月7日～6月18日	104,226人	1,654人
国立西洋美術館	2000年7月4日～9月24日	280,259人	3,892人

主要関連記事

【雑誌記事】

- 〔張替裕子〕 「歳月を超えて届くオランダ美術の光」
『MILLION』243号（23巻3号）、2000年3月、
ミリオン出版。
- 寺門臨太郎 「十七世紀のオランダ絵画」
『心粧』春号（月刊嵯峨増刊第36号）、2000年3
月、嵯峨御所大覚寺嵯峨御流華道総司所。
- 寺門臨太郎 「黄金時代の美の扉は、いま開かれるのか」
『AAC-Aichi Arts Center』30号、2000年3月

【新聞】

- 尾崎彰宏 「絵の世界こそ現実」
『中日新聞』2000年4月6日朝刊18面
- 井上昇治 「オランダの風—日蘭交流400年 レンブラン
ト、フェルメールとその時代1」
『中日新聞』2000年4月11日朝刊32面
- 井上昇治 「オランダの風—日蘭交流400年 レンブラン
ト、フェルメールとその時代2」
『中日新聞』2000年4月12日朝刊26面
- 井上昇治 「オランダの風—日蘭交流400年 レンブラン
ト、フェルメールとその時代3」
『中日新聞』2000年4月13日朝刊34面
- 井上昇治 「オランダの風—日蘭交流400年 レンブラン
ト、フェルメールとその時代4」
『中日新聞』2000年4月14日朝刊34面
- 井上昇治 「オランダの風—日蘭交流400年 レンブラン
ト、フェルメールとその時代5」
『中日新聞』2000年4月15日朝刊30面
- ワダエミ 「ヨハネス・フェルメール『恋文』（オランダ、
輝く世紀と美と・・・1）」
『中日新聞』2000年4月17日夕刊1面。
- 安野光雅 「アブラハム・ミニヨン『果物と牡蠣のある静
物』（オランダ、輝く世紀と美と・・・2）」
『中日新聞』2000年4月18日夕刊1面
- 高橋達史 「ヤン・ハフィクスゾーン・ステーン『陽気な
家族』（オランダ、輝く世紀と美と・・・3）」
『中日新聞』2000年4月19日夕刊1面
- 三枝成彰 「レンブラント・ファン・レイン『聖パウロに
扮した自画像』（オランダ、輝く世紀と美
と・・・4）」
『中日新聞』2000年4月20日夕刊1面
- 高階秀爾 「ヤーコブ・イサクスゾーン・ファン・ライス
ダール『ハールレム眺望』（オランダ、輝く世
紀と美と・・・5）」

『中日新聞』2000年4月21日夕刊1面

Wouter LALEMAN, "Dutch Art in the Age of Rembrandt and Vermeer," in *Nagoya Avenues*, May - June 2000, pp.14-15.

大西若人 「フェルメール展東西『合戦』」

『朝日新聞』2000年5月8日朝刊東京版28面；

大阪版19面

寺門臨太郎 「レンブラント・ファン・レイン『貝殻』」（もう一つの見どころ レンブラント、フェルメールとその時代 上）

『中日新聞』2000年5月17日朝刊17面

寺門臨太郎 「ヘルクレス・ピーテルスゾーン・セーヘルス『苔むした唐松』」（もう一つの見どころ レンブラント、フェルメールとその時代 中）

『中日新聞』2000年5月18日朝刊18面

寺門臨太郎 「パウルス・モレールス『美しき女羊飼い』」（もう一つの見どころ レンブラント、フェルメールとその時代 下）

『中日新聞』2000年5月19日朝刊20面

早瀬廣美 「17世紀オランダ美術展」（くらしの美）

『産経新聞』2000年5月21日朝刊15面

田原由紀雄 「17世紀のオランダ絵画 もう一つの展覧会 レンブラント、フェルメールとその時代展」

『毎日新聞』2000年6月2日朝刊6面

『田中恭吉展』

TANAKA KYOKICHI a Retrospective

会期 2000年7月15日（土）～8月27日（日） 38日間

主催 愛知県美術館／日本経済新聞社／テレビ愛知

後援 愛知県・岐阜県・三重県・名古屋市各教育委員会

観覧料 一般1,000円、高校・大学生700円、小・中学生400円

（前売り・団体は200円引き）

担当 村田真宏／高橋秀治

内容 出品点数：計266点+資料78点+特別公開公刊『月映』

全作品87点

大正初期に恩地孝四郎、藤森静雄とともに詩と版画の雑誌『月映』を公刊し、日本の近代版画史に注目すべき作品を遺して、わずか23歳で夭逝した田中恭吉の初期から死の直前にいたるまでの制作の全貌を紹介する大規模な回顧展として開催した。また、当館では、この展覧会に併せて公刊『月映』に収録された全作品を特別公開した。

展覧会カタログ B5判（21.5×15.5cm）982ページ

テキスト 井上芳子「田中恭吉「創始のひらめき」」

和田浩一「田中恭吉と「抱擁」のモティーフ—エス
ヴァインの著作におけるマンクとの関連
をもとに」

滝沢恭司「病は私を幸福にした。一喀血前後の表現
をめぐって」

寺口淳治「REINCARNATION

あるいは《綱はれゆく歡喜と悲愁》につ
いての覚書」

奥村一郎「恭吉死後の展開—遺作展覧会・遺作集を
めぐって」

木股知史「田中恭吉のふたつの顔—文学と絵画の交
渉をめぐって」

カタログ I.中学生・白馬会研究所時代 [1908-1910]

II.画学生時代1 [1911-1912]

III.画学生時代 [1913]

IV.『月映』の成立 [1914]

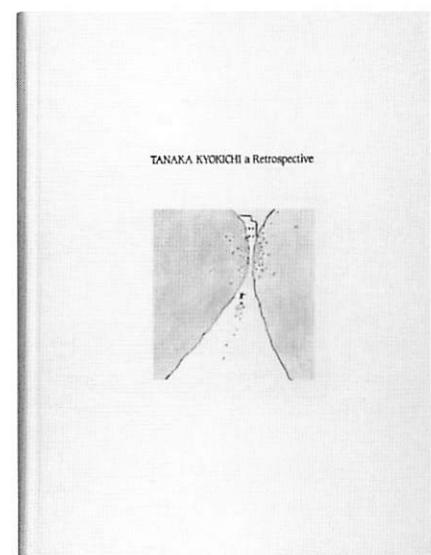
V.紀伊和歌山にて [1914-1915]

VI.死後断片

三木哲夫編 言語表現作品抄録

三木哲夫編 田中恭吉年譜

主要文献目録



編集 和歌山県立近代美術館 寺口淳治／井上芳子／奥村一郎
制作 コギト
発行 NHKきんきメディアプラン

関連事業

記念講演会

7月22日（土）13時30分から15時

「田中恭吉の世界」

講師 村田真宏（愛知県美術館主任学芸員）
特別参加：井上芳子（和歌山県立近代美術館学芸員）

展示説明会（ギャラリートーク）

7月29日（土）、8月5日（土）、8月12日（土）

小・中・高校の先生方への展示説明会

7月22日（土）15時30分から16時 高橋秀治

友の会鑑賞会

7月27日（木）17時から19時 村田真宏

総入場者数 22,788人（1日平均入場者数：599人）

展覧会巡回先	会期	総入場者数	1日平均
和歌山県立近代美術館	2000年4月15日～5月21日	12,588人	393人
町田市立国際版画美術館	2000年6月3日～7月9日	7,572人	236人
愛知県美術館	2000年7月15日～8月27日	22,788人	599人

主要掲載記事

【雑誌記事】

- 増野 「田中恭吉展」
『NHK学園「美の世界」通信』第24号
- 無署名 「田中恭吉 赤い葉包紙の孤独」
『芸術新潮』2000年6月号
- 無署名 「短い生涯のなかで魂を見つめ続けた田中恭吉の表現世界」
『MILLOION』第23巻第6号 2000年7月1日
- 無署名 「残された影画家田中恭吉の周辺」
『SIGNATURE』2000年8月号
- 寺口淳治 「田中恭吉展 天折のベールの向うに」
『版画芸術』109号 2000年9月
- エリス俊子 「田中恭吉」展
『比較文学研究』77号
- 田中淳 「「田中恭吉展」カタログ」（書評）
『美術史』150号（2001年3月）

【新聞】

- 無署名 「田中恭吉展」

- 『新美術新聞』2000年4月11日
無署名 「幻の版画「病児」米で発見」
『産経新聞』2000年4月12日朝刊
生田誠 「大正期の青春を描く」
『産経新聞』2000年4月30日朝刊
無署名 「田中恭吉展 死への恐怖と生きる喜び」
『京都新聞』2000年5月5日
宝玉正彦 「未知の感受性、みずみずしく田中恭吉展」
『日本経済新聞』2000年5月10日朝刊
(昇) 「田中恭吉展 詩と版画に捧げた青春」
『中日新聞』2000年8月3日夕刊
(生) 「田中恭吉展 青春のみずみずしさと苦悩」
『朝日新聞』2000年8月3日夕刊
村田真宏 「田中恭吉展 死を覚悟、花咲いた才能」
『日本経済新聞』2000年8月10日朝刊



『加納光於－「骨ノ鏡」あるいは色彩のミラージュ』

KANO Mitsuo – Mirror of Bone or Mirage of Color

会期 2000年9月15日（金）～11月5日（日） 45日間

主催 愛知県美術館／朝日新聞社

後援 愛知県・岐阜県・三重県・名古屋市各教育委員会

企画協力 ギャルリーユマニテ東京

観覧料 一般1,000円、高校・大学生700円、小・中学生400円

（前売り・団体は200円引き）

担当 牧野研一郎／鯨井秀伸／古田浩俊

内容 出品点数：232点（初期銅版画、オブジェ、フロッタージュ、油彩画、表本）

1950年代半ばに版画家として出発して以来、多様なジャンルに取り組み、詩や音楽、演劇にも関わる幅広い活動を展開し、実験精神と詩的感性に支えられた加納光於（1933-）の半世紀に及ぶ活動の全貌を、初期銅版画、オブジェ、フロッタージュ、油彩画など232点で紹介した。また併せて表丁の仕事をも紹介。

展覧会カタログ A4判変形（30.5×22.6cm）202ページ

テキスト 馬場駿吉「加納光於についての8つの断章—その航跡に沿って」

谷川渥 「加納光於—言葉と作品」

カタログ 1955年-1963年

1964年-1967年

1980年-1989年

1990年-2000年

資料一造本・装幀・表画

加納光於作品の技法・用語解説

資料編

年譜

個展

グループ展

参考文献

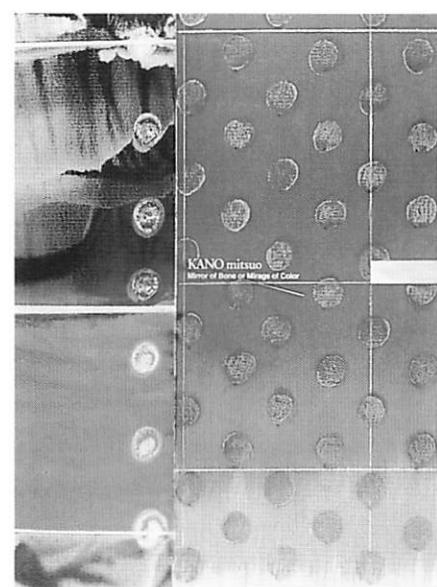
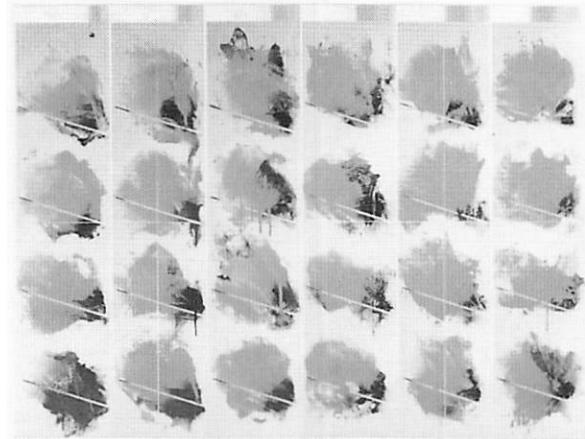
出品目録

編集 愛知県美術館 牧野研一郎／鯨井秀伸／古田浩俊

装幀 作石敏達

制作 印象社

発行 愛知県美術館



関連事業

記念講演会

9月23日（土）13時30分から15時

「加納光於—その航跡に沿って」

馬場駿吉（美術評論家）

小・中・高校の先生方への展示説明会

9月23日（土）15時30分から16時 古田浩俊

友の会鑑賞会

10月5日（木）17時から19時 加納光於

総入場者数 11,606人（1日平均入場者数：258人）

主要関連記事

【雑誌記事】

牧野研一郎 「加納光於展—瀧口修造への応答—」

『版画芸術』109（2000）

小川稔 「加納光於展(展評)」

『美術フォーラム21』4（2001）

【新聞】

大岡 信 「未知への驚異的な探求心」

『朝日新聞』2000年9月12日朝刊

無署名 「色彩の揺らぎを表現—加納光於展」

『高知新聞』2000年10月12日朝刊（信濃毎日新聞／長崎新聞／愛媛新聞ほか）

生田 誠 「華麗なる色彩の交響曲—加納光於展」

『産経新聞』2000年10月22日朝刊

宝玉正彦 「色彩の力 理屈抜きで浸透—加納光於展」

『日本経済新聞』2000年10月25日朝刊

無署名 「回顧展を開いている美術家—加納光於さん」

(近況心境欄)

『朝日新聞』2000年10月25日夕刊

田中三藏 「非現実や日常をとらえる詩魂」

『朝日新聞』2000年10月26日夕刊

無署名 「加納光於「骨ノ鏡」あるいは色彩のミラージュ展」

『中日新聞』2000年10月26日夕刊

長谷川三郎 「まばゆい輝き放つ—加納光於展」

『日本経済新聞』2000年11月9日夕刊

井上昇治 「全体像提示に成功—加納光於展—」

『中日新聞』2000年12月14日夕刊

宝玉正彦 「回顧2000 美術」

『日本経済新聞』2000年12月22日朝刊



『アメリカン・ドリームの世紀』展 A Century of the American Dream

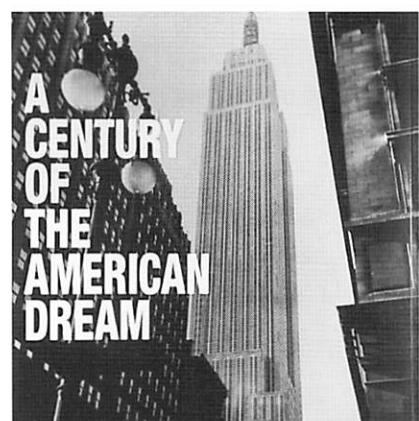
会期 2000年11月23日(金)～2001年1月28日(日) 52日間
主催 愛知県美術館／中日新聞社／東海テレビ放送
後援 アメリカ大使館／愛知県・岐阜県・三重県・名古屋市各教育委員会
特別協賛 中京コカ・コーラボトリング株式会社
協力 日本航空
観覧料 一般1,100円、高校・大学生800円、小・中学生500円
(前売り・団体は200円引き)
担当 雪山行二／高橋秀治／押戸雅彦

内容 出品点数：312点（油彩、版画、写真、デザイン（工業製品）、映像、雑誌資料等）

大量消費社会とマスメディアの膨張とともに発展したアメリカの文化とライフスタイルは、今世紀後半に世界中に浸透し、日本の社会にも計り知れないほどの影響を与えた。「アメリカの世紀」ともいわれる20世紀から新しい世紀への転換を機に、美術、デザイン、写真から大衆文化のさまざまな領域にわたるさまざまな出品物を、「マス・メディア」「風景」「ヒーロー＆ヒロイン」「消費」「生活」の五つのコーナーに分けてアメリカ文化の諸相を通観した。

展覧会カタログ AB判（30×30cm）160ページ

テキスト 雪山行二 「序に代えて「コカ コオラ もう一杯」」
高橋秀治 「《芝刈り機》とその背景」
柏木博 「アメリカン・デザインの総合戦略」
アメリカン・ドリームのキーバーソン
常磐新平 H·R·ルース
柏木博 レイモンド・ローウィ
柳生すみまる エルヴィス・プレスリー
広本伸幸 アンディ・ウォーホル
特集1 マスメディアが生みだした新しいアリズム
特集2 アメリカの風景を変えていったものたち
特集3 ヒーロー＆ヒロインを作り続ける国、アメリカ
特集4 大量生産・大量消費の勝利
特集5 ホームドラマにみる生活
エッセイ モンキー・パンチ 私を魅了したMADとMac
中子真治 もう一度、アメリカ映画の旅にでよう
内田修 どうかご一緒に、愛する“ジャズに乾杯”!!



- 小林克也 「R.E.M型」のアメリカン・ドリーム
- コラム 立野康一 「人の名前を持って生まれたコンピュータ」
- 常磐新平 「アメリカ雑誌の世紀」
- 花村広 「二つのハンバーガー」
- 中子真治 「カラフルに点滅するネオンは不況の憂いを吹き飛ばした」
- 中島徳博 「写真は鏡なのか窓なのか？」
- 山田耕二 「『アメリカのクルマ』をつくったフォードの執念」
- 中子真治 「不況のなかで育まれたアメリカン・デコ」
- 柏木博 「アメリカ的デモクラシーの象徴となつたコカ・コーラ」
- 柏木博 「アメリカン・ホームドラマの原型、レビットタウン」
- 柏木博 「1920年代、既に家事ロボットへの夢が始まった」

主要作品作家

20世紀アメリカを読むキーワードとキーパーソン

20世紀アメリカン・カルチャ一年表

出品作品リスト

写真クレジット

編集 愛知県美術館 高橋秀治／押戸雅彦

兵庫県立近代美術館 岡本弘毅

制作 美術出版デザインセンター

制作協力 編集室レテラ

発行 愛知県美術館／中日新聞社

関連事業

記念講演会（名古屋アメリカンセンター共催）

1月20日（日）13時30分から15時

「20世紀アメリカ美術の探索」

ゲイル・レヴィン（ニューヨーク市立大学教授）

トーク & 演奏 & レコード鑑賞会

12月10日（日）14時から

「ジャズの楽しみ」

内田修、森剣治、和田直

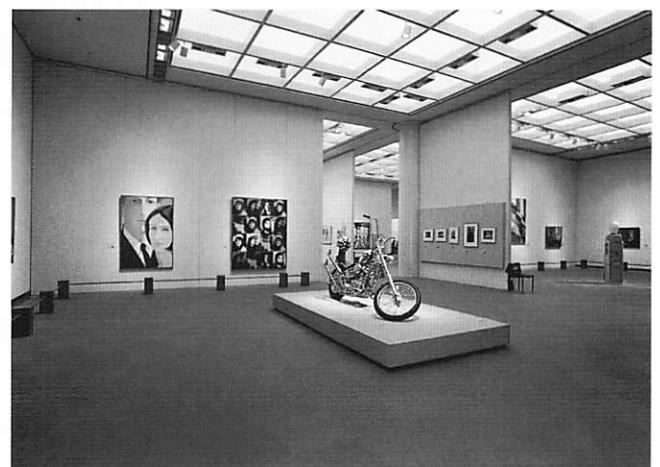
司会：押戸雅彦

映画上映 & 展覧会説明（当館学芸員）

12月23日（土）13時30分から

「アメリカン・グラフィティ」 高橋秀治

1月6日（土）13時30分から



「イージー・ライダー」 雪山行二

学芸員による展示説明会（ギャラリー・トーク）

11月25日（土）10時30分から 高橋秀治

12月9日（土）10時30分から 雪山行二

1月6日（土）10時30分から 拝戸雅彦

小・中・高校の先生方への展示説明会

11月25日（土）15時から 高橋秀治

友の会会員のための特別鑑賞会

11月30日（木）17時から 高橋秀治

総入場者数 25,390人（1日平均入場者数：488人）

展覧会巡回先	会期	総入場者数	1日平均
愛知県美術館	2000年11月23日～2001年1月28日	25,390人	488人
兵庫県立近代美術館	2001年2月7日～3月25日	12,211人	290人

主要関連記事

【雑誌記事】

池上ちかこ 「Check it out注目の展覧会から アメリカン・ドリームの世紀展」

『美術手帖』800（2001）

無署名 「特集 アメリカン・ドリームの世紀」
『藝術公論』11（2000）

【新聞】

小林克也 「若くて広大でフェアな国に憧れた」
『中日新聞』2000年11月23日朝刊

長谷川三郎 「米文化を振り返る」
『日本経済新聞』2000年11月30日夕刊

山城新伍 「懐かしい品々に感慨」
『中日スポーツ』2000年11月30日日刊

高橋秀治 「アメリカン・ドリームの世紀展」
『AAC-Aichi Arts Center』31号（2000年12月）

片岡義男 「栄光の時代に1 エドワード・ホッパー「街の陽射し」寂しさ漂う光の空間」
『中日新聞』2000年12月4日夕刊

雪山行二 「栄光の時代に2 ハーレー・ダヴィッドソン「イージー・ライダー・チョツバー」 美しく優雅、自由の象徴」
『中日新聞』2000年12月5日夕刊

湯川れい子 「栄光の時代に3 アンディ・ウォーホル「エルヴィス」俳優の夢潰えた墓標」
『中日新聞』2000年12月6日夕刊

山本厚夫 「栄光の時代に4 T型フォード 20世紀を代表する名車」
『中日新聞』2000年12月8日夕刊

- 篠原有司男 「栄光の時代に 5 ライフゴーイングス「マクドナルド・ピックアップ」 文化の中心ここにあり」
『中日新聞』2000年12月9日夕刊
- 岡本隆明 「20世紀を代表する美術」
『読売新聞』2000年12月9日朝刊
「ジャズファン180人しっとり」
『中日新聞』2000年12月12日朝刊
- 高橋秀治 「アメリカン・ドリームの世紀展作品紹介①
ジョン・スローン三番街六番通り」
『中日新聞』2000年12月12日夕刊
- 高橋秀治 「アメリカン・ドリームの世紀展作品紹介②
石垣栄太郎新聞を読む」
『中日新聞』2000年12月13日夕刊
- 高橋秀治 「アメリカン・ドリームの世紀展作品紹介③
アンディ・ウォーホル16のジャッキーの肖像」
『中日新聞』2000年12月14日夕刊
- 高橋秀治 「アメリカン・ドリームの世紀展作品紹介④
メル・ラモス ケチャップ・クイーン」
『中日新聞』2000年12月16日夕刊
- 高橋秀治 「アメリカン・ドリームの世紀展作品紹介⑤
ロバート・ベクトル 61年型ポンティアック」
『中日新聞』2000年12月17日夕刊
- 無署名 「広告と美術の時代検証」
『総合報道』2000年12月15日旬刊
- 柏木博 「20世紀を支配したアメリカ文化 消費の民主主義とは」
『中日新聞』2000年12月19日夕刊
- 無署名 「スポットライト 年配に懐かしいモノの群れ」
『朝日新聞』2000年12月21日夕刊
- 無署名 「そこに古き良き米国」
『日本経済新聞』2000年12月21日夕刊
- 加藤薰 「芸術展望 戦後日本が“欲望”したモノを一堂に」
『聖教新聞』2000年12月24日日刊
- 井上昇治 「あこがれたあの時代」
『中日新聞』2000年1月6日夕刊
- 無署名 「中日春秋」
『中日新聞』2001年1月20日朝刊
- 無署名 「NY市立大学教授が20世紀の米美術解説」
『中日新聞』2001年1月21日朝刊
- 加藤義夫 「文化誕生の経緯示す」
『日本経済新聞』2001年2月20日夕刊

『生誕110年 岸田劉生展』

RYUSEI KISHIDA

会期 2001年2月9日(金)～4月1日(日) 45日間

主催 愛知県美術館／中日新聞社

後援 愛知県・岐阜県・三重県・名古屋市各教育委員会

協賛 日動火災

観覧料 一般1,000円、高校・大学生700円、小・中学生400円
(前売り・団体は200円引き)

担当 牧野研一郎／寺門臨太郎

内容 出品点数：130点(油彩73、水彩・素描35、日本画18、版画4)

対象に肉迫して生命の本質を捉えようとする写実絵画を追求し、強烈な個性と独自の芸術観によって大正・昭和初期の芸術界に大きな影響を及ぼした岸田劉生の芸術を油彩画、水彩画、素描などの代表作によって回顧した。併せて装丁本、書簡等の資料も紹介した。

展覧会カタログ A4判変形(29.6×22.6cm) 189ページ

テキスト 酒井忠康 「岸田劉生における「写実」と「近代」」

カタログ 章解説・作品解説

寺門臨太郎

銀座時代「—後期印象派の洗礼—1907年-1913年」

橋秀文

代々木・駒沢時代「—写実と内なる美—1913年-1917年」

長門佐季

鶴沼時代「—麗子と村娘—1917年-1923年」

牧野研一郎

京都・鎌倉時代「—東洋の美—1923年-1929年」

梶山孝編 岸田劉生年譜

岸田劉生アルバム

平川淳編 岸田劉生文献目録

出品リスト

編集 愛知県美術館／神奈川県立近代美術館／笠間日動美術館／東京新聞

装幀 作石敏達

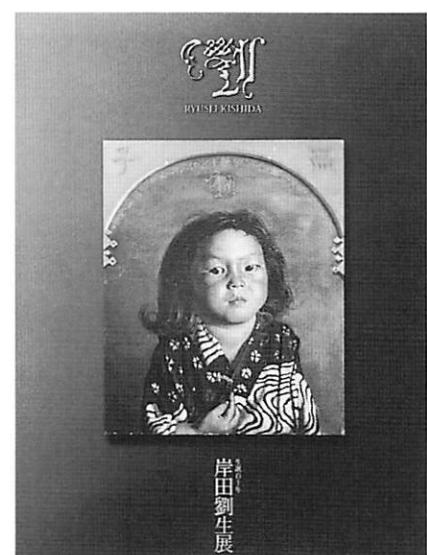
制作 印象社

発行 東京新聞



www.ryusei-ten.com

岸田劉生展 オフィシャルホームページ
Ryusei Kishida Exhibition Official Website
<http://www.ryusei-ten.com>



岸田
劉生
展

関連事業

記念講演会

3月3日（土）13時30分から15時

「私の岸田劉生」

浅野 徹（名古屋ボストン美術館長／名古屋芸術大学教授）

小・中・高校の先生方への展示説明会

2月24日（土）13時30分から15時 寺門臨太郎

友の会鑑賞会

2月15日（木）17時から19時 寺門臨太郎

総入場者数 36,752人（1日平均入場者数：817人）

展覧会巡回先	会期	総入場者数	1日平均
神奈川県立近代美術館	2001年4月7日～5月20日	26,575人	718人
笠間日動美術館	2001年5月26日～7月8日	9,470人	249人
愛知県美術館	2000年7月15日～8月27日	36,752人	817人

主要関連記事

【新聞】

大津英敏 「わが愛、麗子1 麗子肖像」

『中日新聞』2001年2月14日夕刊

岸田夏子 「わが愛、麗子2 麗子微笑」

『中日新聞』2001年2月15日夕刊

浅野 徹 「わが愛、麗子3 野童女」

『中日新聞』2001年2月16日夕刊

杉本健吉 「わが愛、麗子4 麗子十六歳之像」

『中日新聞』2001年2月17日夕刊

長谷川三郎 「写実の果てにナゾ残す」

『日本経済新聞』2001年3月1日夕刊

山中英之 「写実がはらむ神秘性」

『京都新聞』2001年3月17日朝刊

北澤憲昭 「作家像誠実に再検証—岸田劉生展」

『朝日新聞』2001年3月16日夕刊

寺門臨太郎 「生誕110年岸田劉生展1 街道」

『中日新聞』2001年3月14日朝刊

寺門臨太郎 「生誕110年岸田劉生展2 道路と土手と堀」

『中日新聞』2001年3月15日朝刊

牧野研一郎 「生誕110年岸田劉生展3 静物」

『中日新聞』2001年3月17日朝刊

牧野研一郎 「生誕110年岸田劉生展4 岡崎義郎氏之肖像」

『中日新聞』2001年3月18日朝刊

丹尾安典 「岸田劉生—でろりの味覚」

『中日新聞』2001年3月23日夕刊

移動美術館

教育普及活動の一環として、名古屋地域から遠隔にある県内各地に所蔵作品を移動展示し、併せて講演会等の事業を行う移動美術館を年一回開催している。これは当館と財団法人愛知県文化振興事業団および開催市町村との共催によるもので、第1回南知多町、第2回足助町、第3回渥美町、第4回設楽町、第5回吉良町、第6回新城市に続き、2000年度は立田村で開催した。

立田村および近隣から、3,919人の来館者があった。

名称：愛知県美術館 平成12年度 移動美術館

「美術館がやって来た。」

主 催：愛知県美術館、愛知県文化振興事業団、立田村、
立田村教育委員会

会 期：2000年9月30日（土）～10月9日（月・祝）

会 場：立田村総合体育館

観覧料：無料

担 当：古田浩俊／藤島美菜／栗田秀法

展示内容ならびに展示点数：

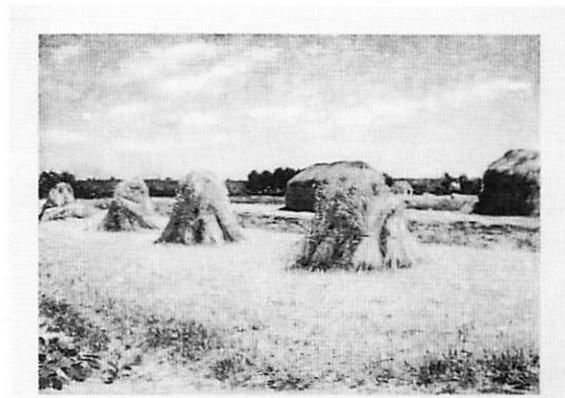
明治から現代にいたる日本の洋画を中心に、海外の作品や彫刻を加え、人物、静物、風景、抽象に分けて展示。43点（絵画39、彫刻4）

<人物>

E.J.・ポインター	世界の若かりし頃	1891
梅原龍三郎	若き羅馬人	1909
宮脇晴	自画像	1920
佐分真	裸婦	1925頃
A・ボーシャン	フィアンセを訪ねて	1928
里見勝藏	裸婦	1928/29頃
鬼頭鍋三郎	マドモアゼルM	1954
鳥海青児	うづくまる	1954
桂ゆき	人と魚	1954
三尾公三	Fiction Space (x)	1974
島田章三	石庭女人図	1976

<静物>

高橋由一	厨房具	1878頃
黒田清輝	花と猫	1906
中村 祐	静物	1915頃
北川民次	南国の花	1940
三岸節子	魚とインカの壺	1952



平成12年度

9月30日（土）～10月9日（月・祝）

午前9時～午後5時 初日（30日）は午前10時から開館

10月8日（日）は午後9時まで

立田村総合体育館

濃部郡立田村大字小茂井字松下5

主催：愛知県美術館・(財)愛知県文化振興事業団・立田村・立田村教育委員会

お問い合わせ：立田村教育委員会 社会教育課 TEL：0567-24-3637

入場無料



平成12年度

移動美術館

美術館が
やつて來た。

愛知県立田村総合体育館にて
開催される「愛知県美術館 平成12年度 移動美術館」

は、立田村の自然豊かな環境の中で、多くの日本の美術の魅力を発見する機会となることを願って企画されました。

須田国太郎	樹下	1954
矢橋六郎	牡丹	1946
上田薰	なま玉子G	1976
笠井誠一	ウクレレと冬瓜とグロリオサのある卓上 静物	1995

<風景>

久米桂一郎	秋景	1892
青木繁	太田の森	1902
大沢鉢一郎	大曾根風景	1919
小林和作	薔薇咲くカブリ島	1928
海老原喜之助	雪山と樵	1930
岡鹿之助	窓	1949
児島善三郎	伊豆の海	1951
林武	ノートルダム	1960
森芳雄	アクロポリス	1963
荻須高徳	サンドニ	1964
杉本健吉	宇治川	1973

<抽象>

村井正誠	天使	1950
J・デュビュッフェ	二人の脱走兵	1953
田淵安一	有機的表象	1955
難波田龍起	萌	1961
J・アルバース	正方形頌	1962
佐々木四郎	閉ざされた空間Ⅲ M-5	1962
猪熊弦一郎	地図の中の日曜日	1979
中西夏之	紫・むらさき X IX	1983

<立体>

荻原守衛	女の胴	1907
戸張孤雁	煌く嫉妬	1924
E.A・ブルデル	両手のペートーベン	1908
堀内正和	四角と丸の組み合せb	1956

教育普及事業：

記念講演会：9月30日（土）

「美術のたのしみ」 長谷川三郎

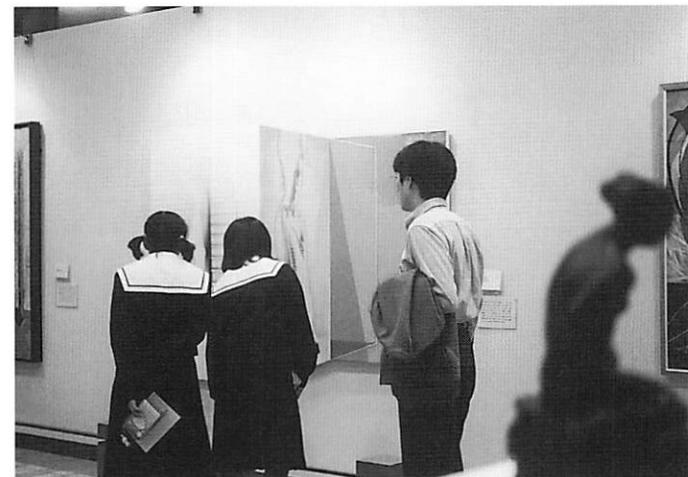
展示解説：（一般）

9月30日（土）

10月7日（土）

（学校団体）

立田村内の小・中学校を中心に実施。



作品の収集と保存管理

作品の収集

1 収集方針

- ・20世紀の優れた国内外の作品及び20世紀の美術動向を理解する上で役立つ作品
- ・現在を刻印するにふさわしい作品
- ・愛知県としての位置をふまえた特色あるコレクションを形成する作品
- ・上述の作品・作家を理解する上で役立つ資料

2 収集委員会の開催

- ・第1回収集委員会 2001年2月13日
- ・第2回収集委員会 2001年3月（持ち回りによる）

3 収集の状況

作品の購入はなく、7点の作品の寄贈を受けた。2001年3月末日までの収集の状況（点数）は次のとおりである。

美術品等収集状況

	99年度までの収集				00年度			総計		
	愛知県文化会館美術館	新美術館準備	開館後	計	購入	寄贈	計	購入	寄贈	計
〈国内〉										
日本画(JJ)	149	45	16	210	0	0	0	136	74	210
洋画(JO)	378	59	40	477	0	4	4	389	92	481
水彩・素描(JO)	309	134	13	456	0	1	1	377	80	457
立体(JS)	23	38	20	81	0	1	1	72	10	82
版画(JP)	101	207	48	356	0	0	0	319	37	356
資料(JM)	4	1	4	9	0	1	1	0	10	10
工芸その他	70	0	0	70	0	0	0	39	31	70
小計	1034	484	141	1659	0	7	7	1332	334	1666
〈海外〉										
絵画(FO)	15	24	10	49	0	0	0	45	4	49
水彩・素描(FD)	0	4	4	8	0	0	0	8	0	8
立体(FS)	6	13	8	27	0	0	0	25	2	27
版画(FP)	1	65	8	74	0	0	0	73	1	74
インスタレーション(FI)	0	0	2	2	0	0	0	2	0	2
資料(FM)	0	1	1	2	0	0	0	1	1	2
小計	22	107	33	162	0	0	0	154	8	162
合計	1056	591	163	1810	0	7	7	1486		1828
藤井達吉コレクション	1460	—	—	—					1460	1460
総計	2516	591	163	3270						3288

※表の注記

愛知県文化会館美術館の収集は1987年度まで行われた。新美術館準備のための収集は、愛知県新文化会館建設事務局及び文化振興局において、1987年4月から1992年10月30日の開館まで行われた。開館後の収集とは1993年度以降のものを指す。なお、藤井達吉コレクションとは、愛知県文化会館美術館の開館時（1955年）に藤井達吉氏より寄贈された同氏の作品及び同氏が収集した絵画・工芸などの資料を指す。

2000年度新収蔵作品

[凡例]

・各作品は、JJ(日本画)、JO(洋画)、JP(日本の版画)、JD(日本の水彩・素描)、FO(海外の絵画)、FS(海外の立体)、FP(海外の版画)、FI(海外のインスタレーション)、FM(海外の資料)に分けられたうえで、作家姓の五十音順(日本の作品)ないしはアルファベット順(海外の作品)に配列され、同一作家による複数の作品については、制作年、次いで作品名の五十音ないしはアルファベットの順もしくはカタログ・レゾネの番号順に配されている。

・各作品に係る収載事項は以下の通り:

作家名 生歿年
作品名
制作年 技法・材質 寸法 (タテ×ヨコ (×奥行き))
初出の展覧会
収蔵種別 (購入、寄贈等) 所蔵番号

国内作家

〈洋画〉

大澤海蔵 1906—1971

OSAWA, Kaizo

晩夏

Late Summer

1934年 油彩、画布

112.6×145.7cm

第22回光風会 (1935)

大澤きよ氏寄贈 00-JO-001



加納光於 1933—

KANO, Mitsuo

語りえぬものための変容

No.1-No.50

Metamorphosis for the Unmentionable
No.1-No.50

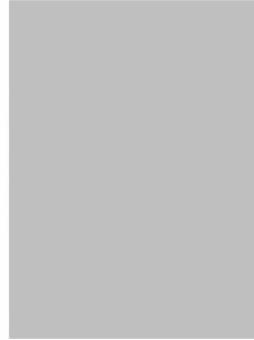
1978年 エンコスティク・メタルプリント、紙

各36.6×26.6cm

「加納光於」パルール画廊、

名古屋 (1978)

作者寄贈 00-JO-004



大澤海蔵 1906—1971

OSAWA, Kaizo

編み物する女

Woman Knitting

1935年頃 油彩、画布

112.6×145.5cm

大澤きよ氏寄贈 00-JO-002



原裕治 1948—

HARA, Yuji

アポクリファ No.2

Apocrypha No.2

1994年 油彩、背高泡立草・紙・木
180.0×270.0cm

「テーマ展示 原裕治」

愛知県美術館 (展示室6) (1994)

作者寄贈 00-JS-001



島田鮎子 1934—

SHIMADA, Ayuko

白の想い

Thought in White

1997年 油彩・コラージュ、画布

131.0×162.0cm

「島田鮎子展」伽藍洞ギャラリー、

名古屋 (1997)

作者寄贈 00-JO-003



ロバート・ラウシェンバーグ 1926—1998

RAUCHENBERG, Robert

プレビュー

(白霜工ディション)

Hoarfrost Editions:Preview

1974年 シルク・シフォンとシル

ク・タフタにシルクスクリーン、

オフセット・リトグラフ、

新聞の転写、紙袋と布のコラージュ

117.5×201.0cm

株式会社 ギャラリーユマニテ寄贈

00-FP-001



〈素描〉

庄司達 1939—

SHOJI, Satoru

原形と写形 No.2

Original Form and Traced Form No.2

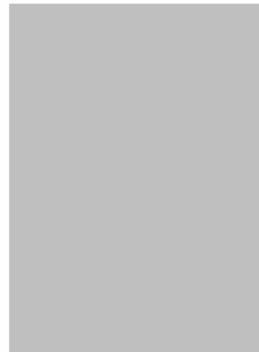
1978年 鉛筆、紙

112.0×82.0cm

グループ展、桜画廊、

名古屋 (1978／79)

利岡誠大氏寄贈 00-JD-001



保存・修復

作品環境を調査し、その維持管理の方法について毎年度重点項目を設け計画的に整備を進めている。先に開始している所蔵作品の保存状態の調査も継続している。

2000年度の活動概要

ア 所蔵作品の状態調査

- ・状態調査作品 19点

イ 所蔵作品の保存処置等

- ・保存処置作品 5点（うち委託 1点）
- ・新規額及び保存箱・付属品の製作 4組

ウ 保存環境の整備

- ・(特記) 清掃業務のマニュアル化（主に展示室）
- ・(特記) 空気調和設備について、光熱費の削減についてを検討
- ・(特記) 害虫発生時対応の準備（低酸素処理方法の準備開始）

エ 借用作品の点検とその維持管理

保存処置作品一覧

No.	作家名	作品名(技法材料)	種別	処置前の状態	処置内容	処置者
1	福本章	樹のある風景 (油彩・画布)	洋画	絵具層の剥離	ゼラチンによる剥落留め	長屋 (館内処置)
2	鬼頭鍋三郎	紫陽花 (油彩・画布)	洋画	絵具層の剥離	ゼラチンによる剥落留め	長屋 (館内処置)
3	イヴ・クライン	肖像レリーフ アルマン (ブロンズに彩色、金箔、板)	立体	絵具層の剥落	充填、補彩 (P.V.Ac、顔料[クライン・ブルー])	長屋 (館内処置)
4	ジム・ダイン	芝刈り機 (金属・木、画布、油彩)	立体	画布のたるみ	裏蓋の作成および オリジナル額の改造	長屋 (館内処置)
5	ジョアン・ミロ	絵画 (油彩・画布)	洋画	画布のたるみ	ルース・ライニング	浅井千晴 (館内処置)

新規額・保存箱製作作品一覧

No.	作家名	作品名(技法材料)	種別	製作物 (理由)
1	大澤海蔵	編み物する女 (油彩、画布)	洋画	仮額一式 (寄贈時に額が付属していなかった)
2	大澤海蔵	晩夏 (油彩、画布)	洋画	仮額一式 (寄贈時に額が付属していなかった)
3	ジョアン・ミロ	絵画 (油彩、画布)	洋画	新規額 (鑑賞上の問題、および現状の額では作品に対する保護機能が十分ではないと判断)
4	パウル・クレー	蛾の踊り (水彩、紙)	水彩・素描	新規額 (鑑賞上の問題、および現状の額では作品に対する保護機能が十分ではないと判断)

所蔵作品の貸出

貸出状況

内外の美術館等からの所蔵作品の貸出要請に対して、展覧会の内容とその意義、当該作品の保存状態、所蔵作品展の展示計画などを十分に考慮し、愛知県美術館所蔵作品貸出要領に則って作品の貸出を行った。

貸出の概要

分野	点数
内作家	日本画(JJ) 17点
	洋画(OJ) 53点
	水彩・素描(JD) 24点
	立体(JS) 2点
	資料(JM) 3点
	藤井達吉コレクション 2点
海外作家	絵画(FO) 11点
	立体(FS) 9点
	版画(FP) 9点
計 (56件分) 130点	

貸出作品一覧

No.	作家名	作品名	展覧会名	貸出期間	会場
1	高橋由一	厨戸具	幕末・明治の横浜展	1999.12.23-2000.4.1	横浜美術館
2	オノサト・トシノブ	三つの黒	もう一つの近代	1999.8.1-2000.4.11 (フランクフルト、ドイツ)	シルンクンストハレ
3	エルンスト・ルートヴィヒ・キルヒナー	グラスのある静物	キルヒナー展	2000.2.28-7.7	ルガーノ近代美術館、 ルガーノ市、スイス
4	パウル・クレー	女の館	バウハウス展	2000.3.11-5.25	宇都宮美術館
5	池田遙邨	稻掛け	池田遙邨展	2000.2.3-5.9	倉敷市立美術館
6	麻田鷹司	鬼界ヶ島	麻田鷹司展	2000.3.27-6.21	京都国立近代美術館 茨城県近代美術館
7	菅井汲	ナショナル・ルートNo.11 菅井汲展		2000.3.31-8.31	兵庫県立近代美術館 東京都現代美術館
8	藤井達吉 藤井達吉	葡萄とモミジ 密陀月五十年前	広川松五郎/高村豊周一近代工芸の時代から	2000.4.5-6.1	新潟県立近代美術館
9	田中恭吉 田中恭吉 田中恭吉 田中恭吉 田中恭吉 田中恭吉	おをそら 月映標章 太陽と花 病める夕 病鳥 埋葬の日	田中恭吉展	2000.4.1-8.28	和歌山県立近代美術館 町田市立国際版画美術館 愛知県美術館

No.作家名	作品名	展覧会名	貸出期間	会場
10 ジェイムズ・アンソール ジェイムズ・アンソール	キリストのブリュッセル入城 悪魔の戦い	黙示録と幻想一世紀末の心象風景展	2000.4.6-6.8	町田市立国際版画美術館
11 アントワース・ブルデル アントワース・ブルデル アントワース・ブルデル アントワース・ブルデル アントワース・ブルデル	自由 勝利 雄弁 両手のペートーヴェン 力	ブルデル展	2000.4.14-6.14	井原市立田中美術館
12 山口勝弘 池田龍雄	港 no.2 黒い機械	岡本太郎へのオマージュ展	2000.4.14-7.24	川崎市岡本太郎美術館
13 須田国太郎 前田寛治 村井正誠	夏 袴衣婦人像 天使	浦和画家とその時代展	2000.4.20-6.21	うらわ美術館
14 長谷川利行	酒売場	没後60年 長谷川利行展	2000.5.8-11.29	神奈川県立近代美術館 宇都宮美術館 三重県立美術館 東京ステーションギャラリー
15 柳原義達	風の中の鶴	柳原義達展	2000.5.26-7.25	世田谷美術館
16 安井曾太郎 満谷国四郎	承德喇嘛廟 裸婦	東アジア・絵画の近代—油画の誕生とその展開	2000.5.24-9.7	台北市立美術館、中国
17 小嶋悠司	穢土	小嶋悠司—凝視される大地	2000.6.30-8.24	京都市美術館
18 アンリ・マティス	待つ	アンリ・マティス マティスとモデルたち	2000.7.7-9.5	東武美術館
19 近藤弘明 田渕俊夫	幽光 青木ヶ原	アートベンチャー冒険美術IV—夢でおどろき	2000.7.6-9.9	滋賀県立近代美術館
20 小出楳重 小出楳重	N婦人像 蔬菜静物	小出楳重展	2000.7.10-11.21	京都国立近代美術館 名古屋市美術館
21 棟方志功	華狩頬	棟方志功と斎藤清展	2000.7.6-9.1	福島県立美術館
22 恩地孝四郎 戸張孤雁 戸張孤雁	丘頂 女学生 雛	大正理想主義の煌めき—戸張孤雁とその仲間たち	2000.7.14-9.3	碌山美術館

No.	作家名	作品名	展覧会名	貸出期間	会場
22	戸張孤雁 戸張孤雁 村山槐多 大沢鉢一郎 中村彝	卓にふせる 襦袢の女 信州風景 ジンベを着た少女 少女裸像	大正理想主義の煌めき—戸張孤雁とその仲間たち	2000.7.14-9.3	硯山美術館
23	オノサト・トシノブ 三上誠	作品 経絡万華絃	アートで遊ぼう・アートを遊ぼう	2000.7.21-9.27	広島市現代美術館
24	伊勢正義 宮脇晴 大沢鉢一郎	鳩と少年 お手玉の少女 少女海水浴	子どもの世界—遊びと暮らし—展	2000.7.25-9.12	茨城県近代美術館
25	岸田劉生 岸田劉生	高須光治君之肖像 斎藤与里氏像	岸田劉生展	2000.8.11-9.27	徳山市美術博物館
26	小出栄重 小出栄重	風景 裸婦	小出栄重の素描展	2000.8.31-10.25	芦屋市立美術博物館
27	金山康喜	静物	金山康喜展	2000.9.6-2001.2.7	小田急美術館 富山県立近代美術館 下関市立美術館
28	中根寛	黎明(名古屋城)	中根寛展	2000.9.8-11.17	高島屋日本橋店8Fホール 高島屋横浜店8Fギャラリー 高島屋京都店7Fグランドホール 松坂屋美術館 高島屋大阪店7Fグランドホール
29	エドワール・ヴュイヤール ピエール・ボナール	窓辺の女 子供と猫	ナビ派と日本	2000.9.9-11.14	新潟県立近代美術館
30	河野通勢 須田国太郎 前田寛治	自画像 夏 褐衣婦人像	日本美術の20世紀展	2000.9.8-11.22	東京都現代美術館
31	オノサト・トシノブ	三つの黒	オノサト・トシノブ展	2000.9.13-11.22	群馬県立近代美術館
32	ライオネル・ファイニンガー 伊藤福紫	夕暮れの海Ⅰ 空間と時間の中に	印象派と光の表現展	2000.9.15-11.1	ふくやま美術館

No.作家名	作品名	展覧会名	貸出期間	会場
33 山本芳翠	西洋裸婦	近代日本の裸婦展	2000.9.22-11.27	井原市立田中美術館
34 梅原龍三郎	横臥裸婦	梅原龍三郎展	2000.9.22-12.22	笠間日動美術館 酒田市美術館 松坂屋美術館
梅原龍三郎	若き羅馬人		2000.9.22-2001.4.21	島根県立美術館 下関市立美術館 岡山県立美術館
35 河本五郎	灰釉動物文花器	河本五郎展	2000.8.4-11.27	瀬戸市文化センター
36 加山又造	黒い鳥	日本画の装飾性	2000.9.20-11.27	松柏美術館
37 パブロ・ピカソ	青い肩かけの女	ピカソ展	2000.9.23-2001.2.9	リエージュ市近現代美術館、 ベルギー
38 今野忠一	妙義	開館10年記念・今野忠一展	2000.9.27-11.28	天童市美術館
39 田渕俊夫 平川敏夫	すぎばやし 樹峠	みどり、自然、木々への憧れ	2000.10.3-11.22	長野県伊那文化会館
40 佐藤太清	旅の夕暮れ	佐藤太清展	2000.10.2-11.7	福知山市美術館
41 牛島憲之	埋れる船	生誕100年記念 牛島憲之展	2000.10.4-2001.4.19	北九州市美術館 神戸市立小磯記念美術館
42 山本丘人	幻雪	山本丘人展	2000.9.19-11.14	天童市秋野不短美術館
43 三岸節子 三岸節子 鳥海青児 鳥海青児	らくがき 魚とインカの壺 うづくまる 石の街ペルー・マスピッチ	鳥海青児・三岸好太郎・三岸節子展	2000.10.16-12.20	尾西市三岸節子記念美術館
44 立川忠治 立川忠治 立川忠治 立川忠治 立川忠治 立川忠治 立川忠治 立川忠治	横顔 横顔1 横顔2 横顔3 川名遠望 棚橋さんの像 中上君 母の像	立川忠治展	2000.10.13-12.1	一宮市博物館

No.作家名	作品名	展覧会名	貸出期間	会場
44 篠忠治	名大四ッ谷付近1	篠忠治展	2000.10.13-12.1	一宮市博物館
篠忠治	名大四ッ谷付近2			
篠忠治	名大四ッ谷付近4			
篠忠治	裸体習作			
45 宮本三郎	家族	宮本三郎展	2000.10.25-12.1	宮本三郎美術館
46 アンディ・ウォーホル ジム・ダイン	レディース・アンド・ジェントルマン アメリカン・ドリームの世紀 芝刈機		2000.11.22-2001.3.31	愛知県美術館 兵庫県立近代美術館
47 福本章	樹のある風景	福本章展	2000.11.10-2001.2.15	安田火災東郷青児美術館 大原美術館
48 鬼頭鍋三郎	マドモアゼルM	写実の骨法	2000.11.21-12.27	文化フォーラム春日井
鬼頭鍋三郎	梧州警備隊(75-1)			
鬼頭鍋三郎	梧州警備隊(75-2)			
鬼頭鍋三郎	紫陽花			
鬼頭鍋三郎	室内			
鬼頭鍋三郎	西洋婦人 モニク嬢			
鬼頭鍋三郎	二人のバレリーナ			
鬼頭鍋三郎	浴後			
杉本健吉	阿修羅像			
大沢鉢一郎	ジンベを着た少女			
大沢鉢一郎	自画像			
大沢鉢一郎	大曾根風景			
篠忠治	正面の顔1			
篠忠治	正面の顔2			
篠忠治	名大四ッ谷付近 西山下水道			
篠忠治	名大四ッ谷付近3			
49 大沼映夫	二人	大沼映夫退官記念展	2000.11.20-12.26	東京芸術大学大学美術館
50 守屋多々志 北澤映月	聴聞(北条政子) 朧(懇の阿国)	歴史を彩った女性たち	2000.12.14-2001.3.19	高島屋大阪店 ジェイアール名古屋タカシマヤ 高島屋京都店
51 伊東深水	大島の黎明	伊東深水展	2000.1.16-2001.3.1	高島屋日本橋店 高島屋大阪店

No.作家名	作品名	展覧会名	貸出期間	会場
52 岸田劉生	高須光治君之像	岸田劉生展	2000.2.8-7.20	愛知県美術館
	斎藤与里氏像			神奈川県立近代美術館
	菴			笠間日動美術館
53 川崎春彦	新雪富士	下保 昭・川崎春彦展	2001.2.3-4.1	茨城県近代美術館
54 鬼頭鍋三郎	春装譜	鬼頭鍋三郎の視線－人間美を描く	2001.3.2-6.2	古川美術館
	二人のバレリーナ			
	浴後			
55 アレクサンダー・アーチベンコ レイモン・デュシャン=ヴィヨン ハンス・アルブ	歩く女 恋人たち 森	近代彫刻の言語展－マッスの解体とアッサンブラージュ	2001.1.20-4.5	横浜美術館
56 アメデオ・モディリアーニ カリアティード		エコール・ド・パリの画家たち展	2001.3.23-5.24	茨城県近代美術館

教育普及

1. 出版・発行

2000年度の発行物

- 企画展カタログ
- 企画展鑑賞の手引き
『レンブラント、フェルメールとその時代』（主要作品14点の解説）
『田中恭吉展』（全体と各章の説明、作品14点の解説）
『加納光於』（章解説、技法・用語解説）
『アメリカン・ドリームの世紀』（各章と作品12点、関連作家9人の解説）
『岸田劉生展』（各章からの4作品を設問形式で解説）
- 所蔵作品展 作品リスト・展示の解説
- 所蔵作品展 特集展示『2000年度 新収蔵作品目録』
特集展示 ジャーコモ・マンズー展 「聖書に関連する主題の解説」
- 小企画展（テーマ展示）『ふじい忠一』
- ワークシートの作成
グスタフ・クリムト『人生は戦いなり』 小学高学年以上対象
マックス・エルンスト『ボーランドの騎士』 小学高学年以上対象
- 『2000年 新収蔵作品目録』
- 『愛知県美術館研究紀要』第7号
- 『愛知県美術館年報』8 1999年度版
- 2001年度 展覧会スケジュール（日本語版・英語版）

企画展ごと各種

- A4判4頁
- A4判4頁
- A4判4頁
- A4判4頁
- A4判4頁
- B5判4頁（第Ⅰ期・前期のみ）、A4判
- A4判変型
- A4判
- A4判変型4色8頁
- A4判三折り
- A4判三折り
- B5判54ページ
- A4判56ページ
- 各A4判変形三折り

2. 講演会・講座・シンポジウム等

2000年度企画展関連の講演会

田中恭吉展：

「田中恭吉の世界」 村田真宏（主任学芸員） 井上芳子（和歌山県立近代美術館 学芸員）	7月22日（土） 105人
--	------------------

加納光於：

「加納光於：その航跡に沿って」 馬場駿吉（評論家）	9月23日（土） 77人
------------------------------	-----------------

アメリカン・ドリームの世紀：

「20世紀アメリカ美術の探索」 ゲイル・レヴィン（ニューヨーク市立大学 教授）	1月20日（土） 70人
--	-----------------

岸田劉生展：

「私の岸田劉生」 浅野徹（名古屋ボストン美術館長／名古屋芸術大学教授）	3月3日（土） 210人
--	-----------------



2000年度連続講座

第1回連続講座「ヨーロッパ美術紀行—魅惑の17世紀」

タイトル	講 師	開催日	参加人数
写実と日常の向こう側 —もう一つのオランダ絵画	幸福輝 (国立西洋美術館学芸課長)	4月15日	300人
フランドル —偉大なる雅俗折衷の王国	寺門臨太郎（学芸員）	4月22日	130人
イタリア —軽くて薄い美術	押戸雅彦（学芸員）	4月29日	140人
明晰さの礼賛—フランス王立アカデミーの理想と現実	栗田秀法（学芸員）	5月20日	150人
スペイン美術 —聖と俗の架橋	雪山行二（副館長）	5月21日	200人



第2回連続講座「アメリカの芸術」

タイトル	講 師	開催日	参加人数
アメリカン・デザインの総合戦略	柏木 博 (武蔵野美術大学教授)	10月7日	42人
ポップ・アートとその背景	高橋秀治 (主任学芸員)	11月8日	32人
オートバイの芸術	古田浩俊 (主任学芸員)	10月15日	30人
「ジャズ」が意味していたもの	押戸雅彦 (学芸員)	10月21日	40人
「映画」:あるいはアメリカの芸術	越後谷卓司 (愛知県文化情報センター学芸員)	10月22日	25人

その他関連事業

トーク＆演奏＆レコード鑑賞会 内田 修 (ジャズプロデューサー) 森 剑治 (ジャズプレーヤー) 和田 直 (ジャズプレーヤー)	12月10日 180人
映画上映＆展覧会説明 『アメリカン・グラフィティ』 高橋秀治 (主任学芸員)	12月23日 80人
『イージー・ライダー』 雪山行二 (副館長)	2001年1月6日 110人

3. 展示解説会 (ギャラリートーク／スライドレクチャー)

展 覧 会	開催日	参加者数
レンブラント、フェルメールとその時代展	4月8日	22人
	4月9日	20人
	5月21日	20人
	5月26日	20人
	6月2日	35人
田中恭吉展	7月29日	22人
	8月5日	8人
	8月12日	17人
加納光於	9月30日	20人
	10月14日	20人
アメリカン・ドリームの世紀	10月30日	25人
	11月13日	23人
	11月27日	33人
岸田劉生展	10月30日	25人
	11月13日	23人
	11月27日	33人

* 「レンブラント、フェルメールとその時代展」では音声ガイド (有料) を設置したことと会場混雑のため、ギャラリートークに替えてアートスペースE・Fでスライド・レクチャーを行った。

4 各種鑑賞プログラム

(1) 教師を対象とした企画展鑑賞会

学校と美術館の連係を深めることを意図し、授業や見学会などで活用してもらうために、美術担当に寄らず、小・中・高校の先生方全般を対象とした企画展の説明会を行っている。

展 覧 会	開催日	参加者数
レンブラント、フェルメールとその時代展	4月15日	66人
田中恭吉展	7月22日	15人
加納光於	9月23日	12人
アメリカン・ドリームの世紀	11月25日	15人
岸田劉生展	2月24日	26人

(2) 児童、生徒を対象とした鑑賞教育

「みて、みて！びじゅつ 夏休み子ども鑑賞会」(所蔵作品展)

八名までの二グループに分かれ、作品の前で担当学芸員と自由に語り合いながら鑑賞した。併せて、個々人が自由に意見を書き込めるように、鑑賞した作品のワークシートを配布し、共に作業した。

担当 藤島美菜 (学芸員)

深山孝彰 (主任学芸員)

開催日	対 象	参加者数
7月25日	①小1～小2	6人
	②小1～小2	10人
7月27日	③小3～小4	16人
	④小3～小4	8人
7月28日	⑤小1～小2	10人
	⑥小5～小6	10人
8月3日	⑦小3～小4	9人
	⑧小1～小2	16人
8月5日	⑨小3～小4	12人
8月8日		

(3) 教育的性格を重視した特集展示

①「学芸員お薦めのこの1点」

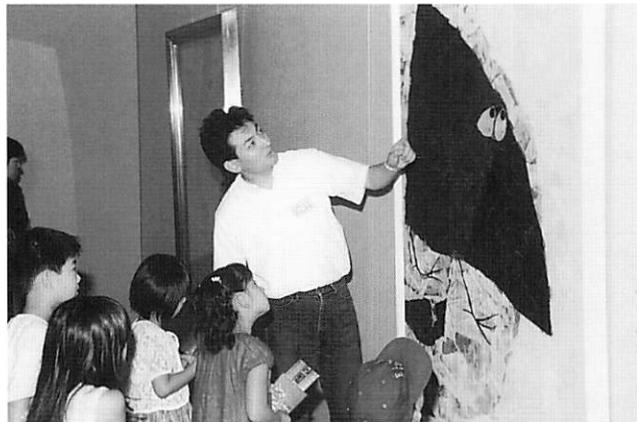
所蔵品展示室前室において各期ごとに「学芸員お薦めのこの1点」コーナーを設け、作品制作の背景などを解説した。

作家名	作品名	期間	担当学芸員名
ルーチョ・フォンターナ	《空間概念》	7/15~8/27	(辻戸雅彦)
北川民次	《タスコからの眺望》	9/15~11/5	(村田真宏)
ライオネル・ファイニングガー	《夕暮れの海Ⅰ》	11/23~1/21	(鯨井秀伸)
梅原龍三郎	《横臥裸婦》	2/9~3/4	(古田浩俊)
岡鹿之助	《窓》	3/6~4/1	(藤島美菜)

②「絵の中のどうぶつたち」：所蔵作品展第Ⅰ期後期（7月15日～8月27日）

夏休み期間に教育的性格を重視した「絵の中のどうぶつたち」と題した特集展示を行い、作品展示位置を低めにし、子供向けの解説パネルとキャブションを用意した。また、大人用、子供用のワークシートを2種作成した。

担当 藤島美菜（学芸員）



(4) 「視覚に障害のある方へのプログラム」

所蔵作品展の中から戦後の洋画を対象に開催。香月泰男《散歩》、糸園和三郎《丘の或る日》、森芳雄《女たち》の大きな文字と点字による解説および立体コピーを作成した。

開催日	参加者	午前、午後の内訳
2月22日	9人	午前：6人 午後：3人
3月1日	11人	午前：8人 午後：3人



5 ビデオテープでの映像機器を利用した鑑賞教育

1999年度に行ったシステムの改良を活用し、企画展と所蔵作品展の展示替えごとに案内映像を作成し来館者に映示提供了。また、「学芸員の仕事2」として、児童および視覚障害者の鑑賞についてのビデオを制作し、映示提供了。



6 博物館実習生の受け入れ

博物館学芸員資格取得のための、博物館実習を実施した。16名の実習生を受け入れた。

実習実施期間

2000年7月24日－28日 5日間

実習内容

総論、美術館の概略、施設見学、収集、保存、所蔵作品展、企画展、教育普及活動、アートドキュメンテーション、作品点検と調書のとり方（演習）、作品の取り扱い方（演習）、友の会活動

実習課題

下記、課題の中から1つを選択。
企画展基本プラン／ワークシート、ガイド作成／教育普及行事プラン

実習生

氏名	大学、専攻等
浅井佳代子	愛知県立芸術大学 美術学部デザイン専攻
石場 文子	名古屋芸術大学 美術学部デザイン科
石村 智子	名古屋芸術大学 美術学部絵画科日本画コース
太田 ゆか	東海女子大学 文学部美学美術史学科
金子 奈生	明治学院大学 文学部芸術学科
桜井 敦子	大阪芸術大学 芸術学部写真学科
杉山 藍香	愛知県立芸術大学 美術学部油画専攻
新家 諭乃	愛知淑徳大学 文学部英文学科
長谷川 龍	名古屋芸術大学 美術学部絵画科洋画コース
林 清英	名城大学 法学部法学科
船橋 仁奈	愛知県立芸術大学大学院 デザイン研究室
水野 智	愛知県立芸術大学 美術学部日本画科
深山 路子	金沢美術工芸大学 美術工芸学部美術科芸術学専攻
山口 貴子	名古屋芸術大学 美術学部絵画科洋画コース
山下 千衣	武蔵野美術大学 造形学部油絵科
和田真理子	愛知県立芸術大学 美術学部日本画科

7. 友の会の運営協力

愛知県美術館友の会

会員数：

年 度	総 数	一般会員		特別会員		総数の男女別内訳		
		内学生	区分ナシ	個人	団体	男性	女性	団体
1994年度	250	224	区分ナシ	24	2	113	135	2
1995年度	350	322	48	27	1	163	186	1
1996年度	381	353	73	27	1	173	207	1
1997年度	446	419	99	25	2	200	244	2
1998年度	420	394	77	24	2	184	234	2
1999年度	381	355	57	25	1	174	206	1
2000年度	441	412	64	28	1	199	241	1

2000年度事業概要：

- 企画展鑑賞会

展 覧 会	開催日	参加者数
レンブラン、フェルメールとその時代展	4月27日	120人
田中恭吉展	7月27日	75人
加納光於	10月5日	61人
アメリカン・ドリームの世紀	11月30日	60人
岸田劉生展	2月15日	71人

※各回とも午後5時からアートスペースAにて担当学芸員によりスライドを用いた説明会、午後6時の閉館後展示室で鑑賞。



- ロビー・コンサートの実施

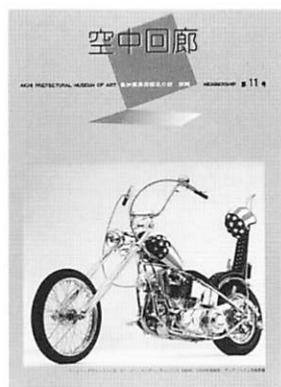
- 第1回 4月27日 参加者170名 ヴィオラ・ダ・ガンバ：櫻井茂
チェンバロ：戸崎廣乃
チェンバロ制作、提供、解説：安達正浩
- 第2回 5月25日 参加者100名 ソプラノ：野々下由香里
リュート：永田平八

- 広報事業

- 会報『空中回廊』第11号（2000年11月）、第12号（2001年3月）の発行
企画展ポスター、ちらし等の宣伝材料の配布

- その他の事業

- 企画展及び所蔵作品展の無料観覧の実施
企画展関連商品の割引販売の実施
愛知県美術館が開催する講演会の聴講特別枠の設定
愛知県美術館が開催する講演会の経費協力（定期講演会の1回）
企画展の開会式及び内覧会の参加（但し、特別会員に限る）
芸術文化センター内のレストラン、喫茶における利用割引の実施



2000年度の調査研究実績

当館および他の美術館や博物館の活動に関するもの、公的な助成による研究、学術雑誌や学会での発表に限定して記載し、一般の新聞・雑誌・画集・画廊カタログ等への寄稿（評論・解説・批評等）、および大学や市民講座・テレビ・ラジオ等での講義・講演等は除いている。

ア 所蔵作品のこと

- 古田浩俊 「ヴァシリー・カンディンスキーの木版画《夕暮れ》」
『愛知県美術館研究紀要』第7号 (2001年3月)

イ 企画展のこと

- 寺門臨太郎 「黄金時代の曙」「オランダの景観—風景描写と「オランダ」の成立」「作品解説」「レンブラント、フェルメールとその時代 アムステルダム 国立美術館所蔵 17世紀オランダ美術展」
(2000年4月) 所収
- 牧野研一郎 「章解説（1955年—1963年、1964年—1979年、1980年—1989年、1990年—2000年）」「加納光於「骨ノ鏡」あるいは色彩のミラージュ」(2000年9月) 所収
- 鯨井秀伸 「資料—造本・装幀・装画」「加納光於作品の技法・用語解説」「参考文献」同上
- 古田浩俊 「資料—造本・装幀・装画」「加納光於作品の技法・用語解説」「年譜」「個展」「グループ展」同上
- 雪山行二 「序に代えて“コカ コオラもう一杯”」「20世紀アメリカン・カルチャーバー表」「アメリカン・ドリームの世紀」(2000年11月) 所収
- 高橋秀治 「《芝刈り機》とその背景」「章解説（マス・メディアが生み出した新しいリアリズム、アメリカの風景を変えていったものたち、ヒーロー&ヒロインを作り続ける国、アメリカ、大量生産・大量消費の勝利、ホームドラマにみる生活）」同上
- 坪戸雅彦 「20世紀アメリカを読むキーワードとキーパーソン」同上
- 寺門臨太郎 「章解説（銀座時代—後期印象派の洗礼）」「作品解説」「生誕110年 岸田劉生展」(2001年2月) 所収
- 牧野研一郎 「章解説（京都・鎌倉時代）」「作品解説」同上

ウ 作品の保存のこと

- 長谷川三郎 「文化財の生物による劣化防除に関する調査研究」文化庁主催、研究協力者として参加
(2000年2月から2001年3月)
- 長屋菜津子 「文化財の生物による劣化防除に関する調査研究」文化庁主催、ワーキンググループメンバーとして参加 (2000年2月から2001年3月)
- 長屋菜津子 「IPMとは」第18回保存ワーキンググループ会合 (2000年9月)
- 長屋菜津子 「環境にやさしい保存科学」愛知県博物館協会主催、歴史民俗部門学芸員研修会
(2001年3月)

エ アート・ドキュメンテーションのこと

- 鯨井秀伸 「美術作家名ファイル研究」継続中 (ホームページに掲載)
- 鯨井秀伸 「オブジェクト・ドキュメンテーションにおけるデータ・リレーションシップおよびコンテキストにおけるカテゴリーについて」『アート・アーカイブズ／ドキュメンテーション』慶應義塾大学アート・センター／ブックレット07 (2001年3月)

オ その他

- 栗田秀法 「原典資料紹介：王立絵画彫刻アカデミーの一六四八年の会規集」
『愛知県美術館研究紀要』第7号 (2001年3月)
- 栗田秀法 (監修・註)
「原典資料紹介 アンドレ・フェリビアン「王立絵画彫刻アカデミー講演録序」(上)」『美学美術史研究論集』17—18号 (1999／2000) 名古屋大学文学部美学美術史研究室
- 長屋菜津子 「保存の立場から見た美術館、もしくは美術館から見た文化財保護体制」『美術フォーラム21第3号』(2000年11月)
- 深山孝彰 「ふじい忠一とその作品」『テーマ展ふじい忠一』(2000年9月)
- 深山孝彰 「現代作家紹介：巨木と斬り結ぶ ふじい忠一」『美術フォーラム21』第3号 (2000年11月)
- 古田浩俊 「有島生馬と島崎藤村—セザンヌ受容史の中で—」『國文學』第45巻8号 (2000年7月)
- 木本文平 「美術科50年の歩み (団体系作家を中心にして)」『愛知県立旭丘高校美術科 創設50周年記念 美術科五十年の歩み』(2000年9月)
- 木本文平 「寛 忠治—画業の展開—」『一宮市博物館秋季特別展 寛 忠治』(2000年10月)

ギャラリー(貸館)

「愛知県美術館ギャラリー展示室等利用受付許可要領」にもとづき、8階の展示室A～J（全10室）を各種公募展・団体展等の利用に供している。1998年の利用申込みは186件あり、利用調整の結果173件の展覧会が開催され、60万8千人余の入場者があった。なお、1992年の開館以来利用率は100%である。

2000（平成12）年美術館ギャラリー利用状況

1 展示室利用状況

(単位：日数)

区分 月別	利 用 可 能 性 a	利 用 可 能 性 b	利 用 率 b/a	展示室別利用日数										審査保管室		
				A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	第1	第2	
12年 1月	23	23	100.0	23	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	14	11
2月	25	25	100.0	25	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	0	1
3月	27	27	100.0	27	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	12	8
4月	26	26	100.0	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	12	8
5月	25	25	100.0	25	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	18	6
6月	23	23	100.0	23	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	17	8
7月	25	25	100.0	25	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	2	7
8月	27	27	100.0	27	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	17	2
9月	26	26	100.0	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	4	20
10月	26	26	100.0	26	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	8	15
11月	26	26	100.0	26	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	8	10
12月	22.2	20.4	91.8	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	0	12
計	301.2	302	99.4												103	100

2 展覧会種別利用状況及び入場者数

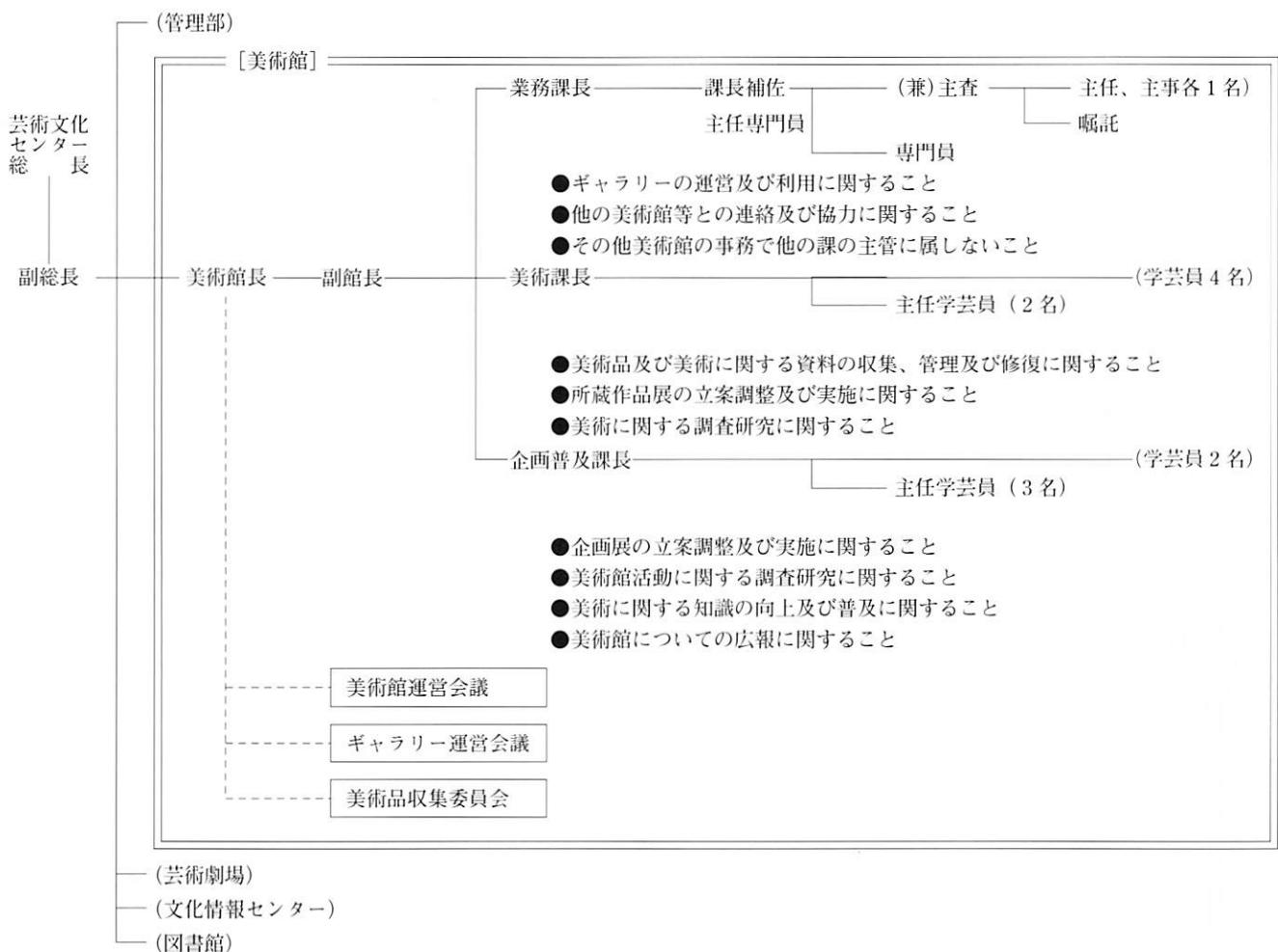
区分 月別	展示会種別利用件数(件)							入場者数 (人)	
	総合展	絵画展	彫刻展	工芸展	書道展	デザイン展	写真展		
12年 1月	3	4	0	1	4	0	0	12	158,478
2月	1	0	0	0	1	1	0	3	10,168
3月	3	8	0	1	5	2	1	20	42,381
4月	3	6	0	1	3	0	0	13	42,763
5月	6	8	1	0	2	0	0	17	40,426
6月	5	4	2	0	4	0	0	15	31,433
7月	6	8	0	2	3	0	3	22	45,927
8月	5	4	0	0	6	0	1	16	49,419
9月	5	5	0	0	3	1	1	15	48,859
10月	7	4	0	0	2	1	0	14	30,282
11月	5	6	0	3	3	0	0	17	44,940
12月	5	5	0	0	3	0	0	13	22,177
計	54	62	3	8	39	5	6	177	567,253

(注) 利用件数及び入場者数は、展覧会会期の初日に属する月で整理した。

3 2000年ギャラリー展示室利用団体一覧

組織および職員構成

1. 組織図



2. 愛知県美術館職員名簿 (2001年3月)

館 長	長谷川三郎
副館長	雪山 行二
業務課長	成瀬 錠一
課長補佐	伊藤 岬
主任主査	廣瀬 光生
主査	内藤 早苗
"	都竹 浩志
主事	足立 理恵
"	山下恵美子
嘱託	木全 康子
美術課長	牧野研一郎
主任学芸員	村田 真宏
"	古田 浩俊
"	鯨井 秀伸
技師(学芸員)	押戸 雅彦
"	長屋菜津子
"	藤島 美菜
企画普及課長	木本 文平
主任学芸員	高橋 秀治
"	村上 博哉
"	深山 孝彰
技師(学芸員)	栗田 秀法
"	寺門臨太郎

関係委員会名簿(2001年3月、50音順)

愛知県美術館運営会議委員名簿

浅野 徹 名古屋ボストン美術館長
遠藤 恒雄 東海女子大学教授
岡部あおみ 武蔵野美術大学教授
陰里 鐵郎 横浜美術館長
笠井 誠一 愛知県立芸術大学名誉教授
小林 龍郎 名古屋市美術館長
酒井 哲朗 福島県立美術館長
田口 豊彦 愛知県文化振興事業団常務理事兼事務局長
中村 英樹 名古屋造形芸術大学教授
早川 忠孝 愛知県県民生活部文化学事課長
馬渕 明子 日本女子大学教授
三浦 定俊 東京国立文化財研究所保存科学部長
竹内 正 名古屋市博物館長
村田慶之輔 川崎市岡本太郎美術館長

ギャラリー運営会議委員名簿

石黒 鑑二 彫刻家、行動美術協会会員
笠井 誠一 洋画家、立軸会会員
加藤 清之 陶芸家
島田 章三 洋画家、国画会会員
田口 豊彦 愛知県文化振興事業団常務理事兼事務局長
樽本 樹邨 書家、日展会員
中村 英樹 名古屋造形芸術大学教授
早川 忠孝 愛知県県民生活部文化学事課長
松井 和弘 日本画家、創画会会員
宮澤 明倫 名古屋市博物館館長事務取扱
山脇 一夫 名古屋市美術館参事

美術品収集委員会委員名簿

浅野 徹 名古屋ボストン美術館長
内山 武夫 京都国立近代美術館長
陰里 鐵郎 横浜美術館長
千足 伸行 成城大学教授
中村 英樹 名古屋造形芸術大学教授
村田慶之輔 川崎市岡本太郎美術館長

愛知県美術館年報 2000 年度版
2002 年 3 月発行
編集 愛知県美術館
発行 愛知県美術館
名古屋市東区東桜1-13-2 ☎461-8525
PHONE : 052-971-5511
FAX : 052-971-5604
表紙デザイン・本文レイアウト 小谷恭治
印 刷 凸版印刷株式会社

2000 Annual Report, Aichi Prefectural Museum of Art
Edited by
Aichi Prefectural Museum of Art
Published by
Aichi Prefectural Museum of Art
1-13-2 Higashisakura Higasiku,
Nagoya, 461-8525, Japan
Designed and layouted by
Kyoji KOTANI
Printed by
Toppan Print Co.
©2002
Printed in Japan